

さいたま市総合振興計画審議会第3部会（第1回）の意見整理表

資料1-1

No.	区	将来像 or 特性	まちポNo. or カテゴリ	委員の意見	対応（案）	反映要否	委員名
1	見沼	区の特性	都市基盤・環境	「見沼代用水東縁と綾瀬川の流れる南東部には見沼田圃が広がり～」の表現が違うのではないかと。見沼田圃は带状に広がらないので「田園地帯」や「田園緑地帯」と記載の方がよい	見沼田圃の説明について、ガイドマップの記載に合わせる。 <修正案> 「国道16号～整備されています。一方、 <u>東部には、見沼代用水東縁、綾瀬川が流れ、南西部は芝川に近接しており、河川に沿って水田のほか、畑が広がり、背後の斜面林と一体となって「見沼田圃」の景観が形成されています。」</u>	必要	齋藤
2	大宮	区の特性	特性	「特性」の「東日本の玄関口としての交通の結節点」とあるが、「首都圏の業務核都市」を表現に加えたかどうか。 また、将来像でも同様の表現を加えてほしい。	「業務核都市」としては、合併前の大宮市と浦和市が指定されている。大宮区だけの記載ではないため、そのままの記載としたい。	不要	小野
3	大宮	区の将来像	①ポイント1(2) ②ポイント2(2) ③ポイント2(3)	①「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」で、大栄橋の渋滞がひどく、駅前整備と併せて「東西方向の整備」にも対応してもらいたい。 ②「渋滞のない～」に「駅周辺の」を前置してほしい。 ③「自動車、自転車の～」に「高齢者等の」を前置してほしい	①については、大宮駅グランドセントラルステーション構想の「東西方向の道路ネットワーク強化・拡充」で対応することになるため、このままの記載としたい。 ②駅周辺に限らない記載としたい ③幅広い世代を含んだ記載が望ましいため、そのままの記載としたい。	不要	小野
4	大宮	区の将来像	ポイント1(6)	「やさしく、楽しみながら、安全安心…」としてほしい。	大宮駅周辺地域戦略ビジョンにも「初めて大宮を訪れる人も、大宮で働く人も、住む人も <u>楽しめる</u> まちをつくれます」とあるので「楽しめる」の文言を追加する。 <修正案> 「訪れる人誰にもやさしく、 <u>楽しく</u> 、安全・安心でおもてなしにあふれた大宮駅周辺のまちづくり」とする。	必要	小野
5	西	区の特性	都市基盤・環境	①「コミュニティバスや乗合タクシーの運行により一定の改善が図られましたが」とあるが、区の端から端まで、特に桜区のコミュニティバスとのアクセスに関する記述を加えてほしい。 ②また、水害を防ぐための荒川の工事に関することも記載してほしい。	①については、今後も進める予定であり、「一層の充実が必要です」という既存の記載での対応としたい。御意見については所管局へも共有する。 ②国の事業で、計画中のものもあり、また、西区だけの記載ではないため、記載はしないこととしたい。	不要	島田
6	西	区の将来像	ポイント2(7) ポイント5(4)	景観の保全や史跡の保存などのボランティアが高齢化に伴い減っている。後継者等、保存する人のためにも、地域の組織の形成・育成についても記載してほしい。	地域組織の形成・育成という視点として、ポイント2(7)に「仕組みづくり」の文言を追加する。 <修正案> 「市民参画のまちづくりに向けた <u>仕組みづくり</u> 、ボランティア活動に関わるネットワーク支援」のように、「仕組みづくり」の文言を追加する。	必要	島田

さいたま市総合振興計画審議会第3部会（第1回）の意見整理表

資料1-1

No.	区	将来像 or 特性	まちポNo. or カテゴリ	委員の意見	対応（案）	反映要否	委員名
7	大宮	区の将来像	ポイント1標題	「利便性と機能性」は、同じような意味なので、「拠点性」など拡がりのある意味の言葉を用いた方がよい。	「利便性と機能性を兼ね備えた」を「拠点性を高めた」に変更する。 <修正案> 「東日本の玄関口としてふさわしい、 <u>拠点性を高めた</u> 大宮駅周辺のまちづくり」	必要	内田(奈)
8	大宮	区の将来像	ポイント1(4)	「大宮駅西口周辺」とあるが、東口も現在再開発が進んでいるので、「業務機能」という言葉を追加しても良いのでは。	大宮駅東口周辺の記載（ポイント1(3)）にも「業務機能の充実」についての文言を追加する。 <修正案> 「大宮駅東口周辺の <u>業務機能の充実</u> や商業の賑わいと氷川の杜の歴史・文化が調和したまちづくり」	必要	内田(奈)
9	大宮	区の将来像	ポイント2(2) ポイント2(3)	安心して歩き集えるような街づくりなど、歩行者の視点を加えてほしい。	歩行者の視点については、将来都市構造の中で示す予定のため、そのままの記載としたい。	不要	内田(奈)
10	全体	区の将来像	全体的	歩行者と自転車・自動車交通の記述に差があるので、各区の特徴に合わせて、記載した方がよい。	区の特徴データを踏まえた市民意見をもとに作成しているため、そのままの記載としたい。	不要	内田(奈)
11	全体	区の将来像	全体的	将来像をみた印象として、のっぺりしている。転入超過数をみても、将来的に高齢者は減り、若い人は増えていくものと考えられ、例えば、千葉市や西東京市に比べてよい状況。記載内容は変えなくてもよいが、他市との違いを出せるとよい。他にも「災害が少ない」「高速道路の状況もよい」などがある。 区それぞれによいところがある。事業所管者のためにも区の色を付けて、良いところを伝えるものであってほしい。北区は、高齢者が少ないが、子どもが多いので、「育成」に着目してもよいのでは。	区の特性や市民意見を踏まえて、区の将来像は作成しているため、このままの記載としたい。北区で言えば、「育成」に着目すると、ポイント1(2)の「子育て環境の充実～健康で元気に暮らせるまちづくり」やポイント3(1)の「学校と～子どもを地域全体で育てる風土づくり」などの特徴について記載している。	不要	秋元
12	全体	区の特性	全体的	全体構成で、将来都市構造が先に出てくる。それが区ごとに落ちてきたときに関係性が読めない。「区マップ」については整理中という認識でよいのか。	現在、区マップについては整理中。第1部会の将来都市構造と調整して決定したい。 ※第3回第3部会で最終的な案を示す予定。	継続検討	岡本

さいたま市総合振興計画審議会第3部会（第1回）の意見整理表

資料1-1

No.	区	将来像 or 特性	まちポNo. or カテゴリ	委員の意見	対応（案）	反映要否	委員名
13	緑	区の特徴	都市基盤・環境	美園駅周辺では、副都心を作っている最中で、若い人も増えている。『定住人口・交流人口を増やすこと』について、「新しいライフスタイル」の記述を「働く人の観点」で記載してほしい 【岡本委員の質問の意図は以下の通り】 居住人口・交流人口も大事だが、昼間人口も意識すべきであり、それを意識した働き方や新しい郊外ライフスタイルについて、市全体として記載があった方がよい	昼間人口を意識した新しい郊外ライフスタイルについての記載については、今後のまちづくりには重要な視点ではあるが、市全体の方向性として、もう少し上位のレベルで記載するかどうかの議論も必要だと考えるため、第1部会とも調整して決定したい。 ※第3回第3部会で最終的な案を示す予定。	継続検討	岡本
14	全体	区の特徴	全体的	『健幸』とあるが、特性は客観的事実を記載すべきで、「健康」を使わない理由を確認したい。	市で作成した造語であるため、使用する場合は、以下のとおり注釈を入れるなどして分かりやすい記載とする。 ※「健幸」とは…身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、心豊かな生活を送れることを表す、市で作成した造語	必要	石川
15	岩槻	区の特徴	都市基盤・環境	『都市基盤の整備が追い付いていない面があり、公共下水道の整備、子どもや高齢者、障害者でも安心して歩ける生活道路や』とあるが、追い付いていないのは「調整区域」のためである。市域の20～30%の市街化区域を基に記載すべき。	調整区域の基盤整備も含んだ表現として、そのままの記載としたい。	不要	三次
16	岩槻	区の特徴	都市基盤・環境	人口が減っている。小中学校の廃校もあり得る状況になっている。10年後の特性にこの状況を加えて対応を考えていてもらいたい。	人口減少の対応として、「交流人口・定住人口の増加」の文言を追加する。 <修正案> 「さいたま市東部地域の発展と市の副都心としての役割をはたすための新しい軸の形成と交流人口・定住人口の増加が期待されています」	必要	三次
17	北	区の特徴	都市基盤・環境	「国道17号線、国道16号東大宮バイパス、産業道路など広域幹線道路が整備された交通利便性の高い地区」とあるが、東西方向の道路は寸断されたままで、以前、道路計画があったが計画中止になり、踏切も多いなど、交通面でまだ問題がある。	貴重な御意見として関係部署に共有する。	不要	川鍋

さいたま市総合振興計画審議会第3部会（第1回）の意見整理表

資料1-1

No.	区	将来像 or 特性	まちポNo. or カテゴリ	委員の意見	対応（案）	反映要否	委員名
18	北	区の将来像	ポイント1標題	安全安心とあるが、警察署が移転して不安である。警察署の設置を県に聞くと難しいとのことだが、整備計画を立ててほしい。	貴重な御意見として関係部署に共有する。	不要	川鍋
19	浦和	区の特性	全体的	マンションが増えて子供たちが多くなってきたのは嬉しいが、狭い土地にマンションが多く建設され、日照の問題が出てきた。また、外国人が増えてきたので、地域とのかかわり方が課題となるのではないか。	全区的な問題であり、分野別計画の「コミュニティ・人権・多文化共生」で記載される内容でもあるため、区の将来像・特性としては、このままの記載としたい。	不要	藤枝
20	桜	区の将来像	全体的	市街化調整区域に指定されていることで、人が集えない状況になっている。人が集まれば賑わいが生まれるので、その辺を考慮した上で区の将来像を考えてほしい。	賑わいの作り方としては、既存の施設などを利用しながら、大学や地域住民の協働でイベントを実施するなど、様々な方法も考えられる。ポイント2及び4の内容に含まれるため、このままの記載としたい。	不要	茂木
21	全体	—	全体的	自治会連合会の大きな課題として、加入率が低下し、60%という問題がある。特に駅周辺のマンション加入率が低い。安全なまちづくりでは自治会が機能していることが大切である。行政が力を入れて自治体加入を促進していく必要があるのではないか。計画の中にも自治体の存在価値を高めるための内容を入れて欲しい。	自治会などのコミュニティについては、市全体の取組みとして、分野別計画の「コミュニティ・人権・多文化共生」の中で別途記載予定のため、このままの記載としたい。	不要	松本
22	中央	—	全体的	中央区は、旧与野市時代に概ねすべてのものができている。しかし最近では、ベッドタウン化としてマンションが多くなっており、自治会に入らないケースが多い。	No.21と同様の対応としたい。	不要	本澤
23	全体	—	全体的	区ごとに問題の大小がある。岩槻区、桜区は人口減が課題、浦和区、大宮区は人口増に伴う問題。それをどういう風にしていくか市全体として取り組む必要があるのではないか。	貴重な御意見として関係部署に共有する。	不要	磯田
24	桜	—	全体的	桜区に住んでいるが、高齢者が多い。地元で子供のころから住んでいる人がいなくなっている。農業の2代目問題は、小規模農地で、費用が高いのが要因。	貴重な御意見として関係部署に共有する。	不要	内田(幸)
25	全体	区の特性	全体的	「産業」のカテゴリがある区と、ない区がある。区の特徴が整理されている上で、各区の特性を議論することを考えると5区で「産業」テーマが議論されないと困るので、その意図を知りたい。	全ての区（10区）で産業のカテゴリを設定する方向で検討中。 ※第3回第3部会で最終的な案を示す予定。	継続検討	永沢

「西区の将来像」(素案)(第3部会(第1回))の意見反映

	後期基本計画	主な市民意見 (次期計画に反映した主な意見は青字)	次期総合振興計画 (現行計画からの変更箇所は赤字/審議会意見反映箇所は緑字)
将来像	豊かな自然と歴史文化を活かす すべての人と生活にやさしい 潤いあるまちづくり 水と緑と花が象徴する豊かな自然環境、それに囲まれた潤いある住環境、歴史に根ざした地域文化、地域コミュニティの温かさなど西区の特性が調和したまちを実現するとともに、地域住民による主体的な取組を基礎として、すべての人々が共に生きるまちづくり、協働によるまちづくりを進め、区民が心豊かに誇りをもって住み続けられるまちを実現します。	<ul style="list-style-type: none"> 市街化調整区域の在り方等、まちづくりの将来像が見えてこないで、地域をどう活性化するのか見えてこない。 文化の中心、軸がどこにあるのかぼやけているように思う。 市の計画と区の計画を合わせて夢のある姿を描きたい。 	豊かな自然と歴史文化を活かす すべての人と生活にやさしい 潤いあるまちづくり 水と緑と花が象徴する豊かな自然環境、それに囲まれた潤いある住環境、歴史に根ざした地域文化、地域コミュニティの温かさなど西区の特性が調和したまちを実現するとともに、地域住民による主体的な取組を基礎として、すべての人々が共に生きるまちづくり、協働によるまちづくりを進め、区民が心豊かに誇りをもって住み続けられるまちを実現します。
まちづくりのポイント	1. 安全で、安心して暮らせるまちづくり (1) 歩道や街灯などの充実やバリアフリーのまちづくり (2) 鉄道駅や主要施設を結ぶ交通ネットワークの充実 (3) 災害や犯罪などに対する安全性の向上 (4) 公共用水域の水質保全のための公共下水道の普及、公園やコミュニティ関連施設など公共施設が身近に利用できる環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設のバリアフリー化を進めてほしい。 生活道路、区を中心道路ということ考えながら道路の改善を進めていく必要がある。 コミュニティバスが将来的に西区全体を循環し、皆の生活が便利になると良い。 南北に道を通すなど交通網を充実させたい。 高齢化に備え公共交通網を重視する必要がある。 コミュニティバスについて、運行時間や運賃を改善すれば利用率が上がるのでは。 公民館の老朽化対策や公民館への道路整備が課題となっている。 災害時に増加している人口を収容できる施設が必要ではないか。 下水の「普及」は「利用促進」ではないか。 	1. 安全で安心して暮らせるまちづくり (1) 歩道や街灯などの充実やバリアフリーのまちづくり (2) 歩行者が安心して通行できる生活道路の整備 (3) 鉄道駅や主要施設を結ぶ交通ネットワークの充実 (4) 災害や犯罪などに対する安全性の向上 (5) 公共用水域の水質保全のための公共下水道の普及と利用促進、公園やコミュニティ関連施設など公共施設が身近に利用できる環境の整備
	2. 活力のあるまちづくり (1) 生活に密着した商業、都市農業など、区の特徴を生かした産業の育成 (2) 生産者、消費者、行政が連携した地産地消の推進 (3) 鉄道駅周辺の整備による活性化 (4) 区の特徴を生かした学習活動やスポーツ、健康づくりの機会の充実 (5) 三橋総合公園などの特色ある公園を生かした交流の場づくり (6) 豊かな自然と歴史文化にふさわしい景観の保全、文化財や史跡の活用と維持、保存による地区の魅力向上 (7) 市民参画のまちづくりに向けた、ボランティア活動に関わるネットワークの支援	<ul style="list-style-type: none"> 農産物のブランド化を試みたいと考えている。 将来的に区役所から北に商店街が出来ればと考えている。 商店街、商業施設が少ない。 店舗誘致。 農業体験。 造成事業が終了した後はどの様にまちづくりをしていくのかあらかじめ検討を行っておくべき。 西大宮付近の開発。 地元の住人が優先的に使用できる体育館や運動場(施設)があると良い。 「緑と水」で人を呼び込む仕組みが出来ないかと考えている。 文化資源の継承(地元の人以上にも)。 	2. 活力のあるまちづくり (1) 生活に密着した商業、都市農業など、区の特徴を活かした産業の育成 (2) 生産者、消費者、行政が連携した地産地消の推進 (3) 鉄道駅周辺の整備による活性化 (4) 区の特徴を活かした学習活動やスポーツ、健康づくりや施設の充実 (5) 三橋総合公園などの特色ある公園を活かした交流の場づくり (6) 民俗芸能等の無形の文化財や史跡等の有形の文化財の活用による地区の魅力向上 (7) 市民参画のまちづくりに向けた仕組みづくり、ボランティア活動に関わるネットワークの支援
	3. 子育てしやすいまちづくり (1) 子育て世代にあった保健福祉、教育、交流の充実 (2) 共働き世帯の増加と少子化の流れに対応し、区民による支え合いの仕組みなども取り入れた、仕事と家庭を無理なく両立できる子育て支援の充実 (3) 公共施設などを活用した多世代交流の機会づくりや、子ども・青少年の活動機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 子育てしやすい。 	3. 子育てしやすいまちづくり (1) 子育て世代に合った保健福祉、教育、交流の充実 (2) 共働き世帯の増加と少子化の流れに対応し、区民による支え合いの仕組みなども取り入れ、仕事と家庭を無理なく両立できる子育て支援の充実 (3) 公共施設などを活用した、多世代交流の機会づくりや子ども・青少年の活動機会の充実
	4. 高齢者が生き生きと生活できるまちづくり (1) 高齢者が社会活動に参加できる機会や高齢者の健康づくりの充実 (2) 地域住民や民生児童委員、地区社会福祉協議会との連携・協力などを通じた高齢者の自立した生活を見守る環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化に対応して様々なサービスが求められる中で社会福祉協議会のあり方の見直しが必要と考えている。 家族の介護が難しい中、介護する人材をいかに確保していくのか計画に盛り込みたい。 地域福祉の取組みにおいて、社会福祉協議会との連携について言及すべきではないか。 連携の中で、情報の共有のため「行政」との言葉も入れたい。(地域包括支援センター) 地域の人々との関わりが薄い。 	4. 高齢者や障害者が生き生きと生活できるまちづくり (1) 高齢者が社会活動に参加できる機会や高齢者の健康づくりの充実 (2) 行政と地域住民や民生児童委員、地区社会福祉協議会、地域包括支援センターの連携・協力などを通じ、高齢者の自立した生活を見守る環境の整備 (3) 障害者の地域生活を支援するネットワークづくり
	5. 環境と共生したまちづくり (1) 雑木林や川、貴重な動植物などの豊かな自然を残し、生かすまちづくり (2) 自然環境と調和したまちづくりに向けた、農地の保全と休耕地の有効活用 (3) 市民参加による自然環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> 自然が多い。 緑と共生するまちづくり。 休耕地等、農地の有効活用を進めていきたい。 中古の農機を使用してはいいかがか。 休耕地を団体等が借りる取組み例はあるのだろうか。 休耕地を団体等が借りる取組みとして学校で利用すると教科書にないことも学べ、教育に良いのでは。 びん沼の水辺をいかした活性化の方法について考えていただきたい。 アジサイ祭り。 自転車道のネットワークを作る、ということがあっても良いのでは。 	5. 環境と共生したまちづくり (1) 雑木林や川、貴重な動植物などの豊かな自然を残し、活かすまちづくり (2) 自然環境と調和したまちづくりに向けた、農地の保全と休耕地の有効活用 (3) 市民参加による自然環境の保全 (4) 豊かな自然と歴史文化にふさわしい景観の保全及び史跡の維持、保存 (5) 水辺を活かした環境の整備 (6) 区の花アジサイを活かした環境の整備 (7) 自然環境を生かしたサイクリングロードの整備

「北区の将来像」(素案)(第3部会(第1回))の意見反映

	後期基本計画	主な市民意見 (次期計画に反映した主な意見は青字)	次期総合振興計画 (現行計画からの変更箇所は赤字/審議会意見反映箇所は緑字)
将来像	<p>私が住みたいまちづくり 市民参加で日々創造 —「ちょうどよいまち」から「もっとよい北区」—</p> <p>まちづくりとは、日々、より良いものを創り続ける持続的なものです。住民、地域団体、事業者、行政など各主体が互いに協力して、豊かな自然と快適な生活環境の調和を図り、盆栽をはじめとする地域資源を生かしつつ、北区の魅力あるまちづくりを進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 住んでいてよかったとのアンケートがあるが、子どもが転出して<u>誇れる</u>まちづくりが重要。 冒頭のキャッチフレーズの「住みたいまちづくり」ではなく、<u>これから何をするか</u>という点を示すべき。 北区にはよくなった点とこれからの点がある。 北区(帰宅)なので、家庭に寄り添った絆、ソフト面の取組を意識したキャッチフレーズが重要。 	<p>私が誇れるまち 市民参加のまちづくり —<u>住み続けたいまち</u> <u>もっとよいまち</u> <u>北区</u>—</p> <p>住民、地域団体、事業者、行政などが<u>連携</u>して、豊かな自然と快適な生活環境の調和を図り、盆栽をはじめとする地域資源を生かしつつ、<u>市民参加でみんなが誇れる</u>魅力あるまちを<u>目指します</u>。</p>
まちづくりのポイント	<p>1 安全で安心して元気に暮らせるまちをつくる (1)防災・防犯・事故防止に取り組む安全・安心なまちづくり (2)子育て環境の充実、健康づくりへの支援、地域における支え合いなどによる、子どもから高齢者まで、誰もが心身ともに健康で元気に暮らせるまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防犯のことを考えてほしい。 小中学生向けの防犯強化 高齢者サロン、子どもサロンを社協で開催してはどうか。 子育ての保育園は少ない。 <u>子育て、健康づくり、支え合いなどは重要なので、まとめて書くより書き分けた方がよい。</u> 北区4地区の中で日進には児童センターがない。子どもは重要。 	<p>1 安全で安心して元気に暮らせるまちをつくる (1)防災・防犯・事故防止に取り組む安全・安心なまちづくり <u>(2)子育て環境の充実による、子どもが安心して健康で元気に暮らせるまちづくり</u> <u>(3)健康づくりへの支援、地域における支え合いなどによる、誰もが心身ともに健康で元気に暮らせるまちづくり</u></p>
	<p>2 良好な住環境と円滑な交通環境をつくる (1)住宅、工場、農地及び自然環境との調和や景観形成、生活に身近なインフラの整備などによる良好で快適な住みやすい環境づくり (2)公共交通の充実、道路の整備、道路や駅のバリアフリー化、自動車・自転車・歩行者の交通ルールの啓発と交通マナーの向上などによる安全で良好な交通環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 北区の人口が流出しないような仕組みをつくっていききたい。幼稚園や病院へ行けることが重要。 草取りなど昔は皆で対応する文化があったが、今は行政任せになっている。地区別に皆が集まる仕組みが必要。 住環境は優れた役割であり、皆の幸せ、繋がり等のソフト面の施策(医療、安全安心、緑、交通等)を北区のイメージとすると分かりやすい。 自転車には不便でありバリアフリー化をしてほしい。 住・交通について、鉄道はよいが踏切が多い。9+11の20カ所ある。東西関係が分断されており立体交差にしてほしい。 鉄道と川の分断を超える東西交通の充実をバス等のソフトで一体感をつくることが重要。 川越線は日進以西が単線。考えてほしい。 日進・宮原・東宮原・大宮に行くシャトルバスの運行。 人口増加に伴う駅の強化。 	<p>2 良好な住環境と円滑な交通環境をつくる (1)住宅、工場、農地及び自然との調和や景観形成、生活に身近なインフラの整備などによる良好で快適な住みやすい環境づくり (2)公共交通の充実、道路の整備<u>などによる利便性の向上や</u>、道路や駅のバリアフリー化、自動車・自転車・歩行者の交通ルールの啓発と交通マナーの向上などによる安全で良好な交通環境づくり</p>
	<p>3 教育・文化の充実とコミュニティの活性化を図り、ふれあいのあるまちをつくる (1)学校と地域の結びつきの強化などによる、地域への愛着心の育成と子どもを地域全体で育てる風土づくり (2)盆栽・漫画など固有の伝統文化の育成・継承とともに、新たな地域資源を発掘し、国内外への情報発信とこれらを活かしたまちづくり (3)スポーツ・レクリエーションや、様々な生涯学習のための環境づくり (4)古くから住んでいる住民と新しい住民の交流や世代間交流、コミュニティ同士の交流など多様な交流が盛んなまちづくり (5)地域活動への住民の参加促進と行政による支援の充実、地域づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 北区は学校が開かれていた地域への密着度が高い。コミュニティスクールのモデル校となっている。 <u>Bonsai</u> は世界で通じるので、外国人等に対応できるボランティアが増えるとよい。 大宮公園からの導線を盆栽、漫画などをテーマに商店街も含めて観光化できないか。 行政として菜の花をビジュアルでアピールすべき。 文化・伝統・歴史の価値認識。(盆栽等) 子どもがのびのび遊べる環境が必要。 北区には体育館がない。多様な機能をワンコインで備え、家から出かける機会を作ることが重要。 相続で緑が切り売りされている中でどのようにコミュニケーションを深めるかということではないか。 新旧交流について表記の工夫が必要。<u>子育て世代、若い世代、高齢世代</u>など交流がしやすいようにすべき。 まちづくりは鉄道と川で分断されている。これを繋げることが重要。 	<p>3 教育・文化の充実とコミュニティの活性化を図り、ふれあいのあるまちをつくる (1)学校と地域の結びつきの強化などによる、地域への愛着心の育成と子どもを地域全体で育てる風土づくり (2)盆栽・漫画など固有の伝統文化の育成・継承とともに、新たな地域資源を発掘し、国内外への情報発信とこれらを<u>生</u>かしたまちづくり (3)スポーツ・レクリエーションや、様々な生涯学習のための環境づくり (4) <u>若い世代、子育て世代、高齢世代</u>の世代間交流、<u>住民間の交流</u>、<u>コミュニティ間の交流</u>など多様な交流が盛んなまちづくり (5)地域活動への住民の参加促進と行政による支援の充実、地域づくり <u>(写真の変更「区民まつり」)</u></p>
	<p>4 自然環境の豊かなまちをつくる (1)市民の森、三貫清水、北区の花「菜の花」や、盆栽町に代表される街なかの緑など豊かで心安らぐ緑地と、鴨川・芝川など水辺環境とのつながりによる、潤いのあるまちづくり (2)水と緑との共生に向けた、環境保全のための活動の充実と意識づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民の森(見沼田圃)は素晴らしい。 <u>北区の花を一番目にすべき。</u> 70年経つが、元々は住宅もなく田圃だった。北区では昔は川がきれいでも魚もいた。 ポイント4の自然について、台風の際に桜が倒れたが盆栽の街としてPRする際にも桜は重要。 盆栽についても相続で緑がなくなっていく。農業と同じような仕組みを考えてほしい。 保存林制度で盆栽も補助金がもらえるのではないか。 	<p>4 自然環境の豊かなまちをつくる (1) <u>北区の花「菜の花」</u>、市民の森、三貫清水や、盆栽町に代表される街なかの緑など豊かで心安らぐ緑地と、鴨川・芝川など水辺環境とのつながりによる、潤いのあるまちづくり (2)水と緑との共生に向けた、環境保全のための活動の充実と意識づくり</p>
	<p>5 産業の活性化を図り、働きやすい環境をつくる (1)地域資源を生かし、地域住民のニーズに密着した、人が集まり楽しく過ごせる活力ある商店街づくり (2)盆栽や漫画などの地域資源を活用した、多くの人が訪れる観光のまちづくり (3)地域産業の活性化と、事業者との連携による若者や女性などが働きやすい環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大宮公園からの導線を盆栽、漫画などをテーマに商店街も含めて観光化できないか。例えば、駅で盆栽や漫画をアピール。駅周辺、個人商店の活気がない。 ショッピングモールを中心とした他地区からの集客。 Bonsai は世界で通じるので、外国人等に対応できるボランティアが増えるとよい。 さいたま市の特徴に応じて、お土産が必要。サッカーや盆栽などではないか。 盆栽、まんが、桜、プラザノース、菜の花があるが、いいところを活かききれていない。 産業については、盆栽に加えて、氷川神社とセットで人を呼び込んでどうか。 <u>鉄道博物館</u>は来場者が減少傾向にあった中、1棟増設して人気回復。北区の宣伝にも活用すべき。 産業・働き方については、IT、AI等、新たなステージの10年間について若者を巻き込んだ形とすべき。 	<p>5 産業の活性化を図り、働きやすい環境をつくる (1)地域資源を生かし、地域住民のニーズに密着した、人が集まり楽しく過ごせる活力ある商店街づくり (2)盆栽・漫画・<u>鉄道</u>などの地域資源を活用した、多くの人が訪れる観光のまちづくり (3)地域産業の活性化と、事業者との連携による若者や女性などが働きやすい環境づくり</p>

「大宮区の将来像」(素案)(第3部会(第1回)の意見反映)

	後期基本計画	主な市民意見 (次期計画に反映した意見は青字)	次期総合振興計画 (現行計画からの変更箇所は赤字/審議会意見反映箇所は緑字)
将来像	<p>うるおいのある高度な生活基盤と氷川の杜の緑と文化が調和するまち</p> <p>商業・経済都市としてのまちのにぎわいと暮らしやすい生活環境、憩いの空間である氷川の杜の緑や見沼田圃の自然など、大宮区の特徴をより高めながら、多彩な資源を活用して地域文化を発信し、人と人との交流が生み出す活力あるまちづくりを進めます。</p>	<p>うるおいのある高度な生活基盤と氷川の杜の緑と文化が調和するまち</p>	<p>うるおいのある高度な生活基盤と氷川の杜の緑と文化が調和するまち</p> <p>商業・経済都市としてのまちの賑わいと暮らしやすい生活環境、憩いの空間である氷川の杜の緑や見沼田圃の自然など、大宮区の特徴をより高めながら、多彩な資源を活用して地域文化を発信し、東日本の玄関口にふさわしい風格ある都市及び人と人との交流を生み出すヒト、モノ、情報が行き交う対流拠点として、魅力と活力あるまちづくりを進めます。</p>
まちづくりのポイント	<p>1 東日本の玄関としてふさわしい、利便性と機能性を兼ね備えた大宮駅周辺のまちづくり</p> <p>(1)大宮駅周辺とさいたま新都心駅(東口)とが一体となった広域的なまちづくり</p> <p>(2)大宮駅東口における商業の賑わいと氷川の杜の歴史・文化が調和したまちづくり</p> <p>(3)大宮駅西口周辺の商業・業務機能の充実と、都市施設整備や緑化推進などによる洗練されたまちづくり</p> <p>(4)さいたま新都心駅(東口)の商業・文化機能を中心とした、人・物・情報が行き交うまちづくり</p> <p>(5)子どもから高齢者までの地域住民のみならず、訪れる人誰にもやさしく、安心して利用できる大宮駅周辺のまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大宮区は全国的に高齢化する中で、現時点では若年層が多く、これからの数年がチャンスではない。 大宮は都会と見られているが東京の都心とは比べものにはならないので、大宮駅を中心におしゃれにしてほしい(GCS)。 外部から来る人が多い(賑わっている)。 大宮駅からビジネスチャンスを創出するためには、バス等の交通、ビジネスホテル等が課題では。 行政としてマッチングなどに取り組んでほしい。 企業、大学、テレワークの誘致。 	<p>1 東日本の玄関口としてふさわしい、拠点性を高めた大宮駅周辺のまちづくり</p> <p>(1)大宮駅周辺とさいたま新都心駅(東口)とが一体となった広域的なまちづくり</p> <p>(2)大宮駅グランドセントラルステーション化構想による交通基盤整備、駅機能高度化及び駅周辺街区のまちづくり</p> <p>(3)大宮駅東口周辺の業務機能の充実や商業の賑わいと氷川の杜の歴史・文化が調和したまちづくり</p> <p>(4)大宮駅西口周辺の商業・業務機能の充実と都市施設整備などによる洗練されたまちづくり</p> <p>(5)さいたま新都心駅東口周辺の商業機能の充実などによる賑わいと活力あるまちづくり</p> <p>(6)訪れる人誰にもやさしく、楽しく、安全・安心でおもてなしにあふれた大宮駅周辺のまちづくり</p>
	<p>2 質の高い生活環境と安心して暮らせるまちづくり</p> <p>(1)安全で安心して暮らせる、災害に強く、犯罪のないまちづくり</p> <p>(2)渋滞のない道路交通や安全な生活道路など、道路・交通環境の整った快適に暮らせるまちづくり</p> <p>(3)区民の健康増進や環境対策の推進などによる、健康に住み続けられるまちづくり</p> <p>(4)育児環境の整った子育てをしやすいまちづくり</p> <p>(5)学校と地域との活発な交流から生まれる、教育環境の整ったまちづくり</p> <p>(6)身近な公共施設の整備などに、計画段階から地域住民が参加するまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交通渋滞、自転車マナー、高齢者交通安全等に課題がある。 高齢者は、車を運転しなくなると引きこもる傾向があるので、移動のためにバスを増やしてほしい。 2025年問題といわれているが、高齢者の居場所が重要なテーマとなる。 道路が暗く、事故が多い。 高齢者が安心して自転車で出かけられることが重要。 荒川、芝川を結ぶ自転車道がない。整備すれば利用されると思う。 交通の便がよい。 道路交通(バス便) 駅前の渋滞。 屋根付きの道路・アーケードを作る。 近所づきあいが少なくなっている中で、子育てや介護の情報を提供するルートの構築が重要。 青少年の視点で見ると、公園の整備拡充や遊具の充実が重要。 図書館の改善。 学童の改善。 	<p>2 質の高い生活環境と安心して暮らせるまちづくり</p> <p>(1)安全・安心に暮らせる、災害に強く、犯罪のないまちづくり</p> <p>(2)渋滞のない道路交通や安全な生活道路など、道路・交通環境の整った快適に暮らせるまちづくり</p> <p>(3)自動車、自転車の交通ルール・マナーの啓発による交通事故のないまちづくり</p> <p>(4)区民の健康増進や環境対策の推進など、健康に住み続けられるまちづくり</p> <p>(5)育児環境の整った子育てをしやすいまちづくり</p> <p>(6)子どもから高齢者まで誰もが元気に活動できるまちづくり</p> <p>(7)学校と地域との活発な交流による教育環境の整ったまちづくり</p> <p>(8)身近な公共施設の整備など、計画段階から地域住民が参加するまちづくり</p>
	<p>3 氷川神社などの区の魅力の発信と、人の交流が生み出すまちづくり</p> <p>(1)氷川の杜の緑や見沼田圃の自然などの緑のイメージ、氷川神社や鉄道をはじめとする歴史伝統文化などの地域固有の資源を活用した個性ある地域文化の創造と発信</p> <p>(2)伝統芸能の振興に加え、地域に根付いた特色ある祭りや誰もが参画できるイベントの積極的な活用と発信</p> <p>(3)まちの情報や観光ルートが充実した訪れたいまちづくり</p> <p>(4)区民自らがまちの魅力を知り、高め、伝えるまちづくり</p> <p>(5)若者が集い、活力ある文化を発信するまちづくり</p> <p>(6)区民による文化・スポーツ活動と大宮区を拠点とするプロサッカーチーム大宮アルディージャとの交流による一体感の醸成</p> <p>(7)地域住民相互の交流の活発化、行政と連携したボランティア活動などによるコミュニティづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 氷川参道は観光資源として推すべき。なだらかでやさしい点が魅力。 適度に緑が多い。 ブランド力。 スポーツ施設を使った高齢者の健康維持の取組み。 これまで観光のまちとして意識してこなかったので、表示、言語、イベント等で対応すべきではないか(国内外から)。 観光のまちとして見た場合、大宮は便利だが、大宮にしかないものがないのが課題。 行政と連携したコミュニティづくりに関しては15~65歳の現役世代が住みたくなるまちづくりが重要。 幼いころからスポーツ・鉄道に親しめる取組。 いきいき100歳体操の場で民生委員と話をすることができた。近所、自治会、地域で支えあうことが重要。 地域住民の交流。 	<p>3 区の魅力の発信と、人の交流が生み出すまちづくり</p> <p>(1)氷川の杜の緑や見沼田圃の自然、氷川神社や鉄道をはじめとする歴史伝統文化などの固有の地域資源を活用した個性あるまちづくり</p> <p>(2)伝統芸能の振興、地域に根付いた特色ある祭りなど、誰もが参画できるまちづくり</p> <p>(3)まちの情報や観光ルートが充実した国内外から訪れたいまちづくり</p> <p>(4)行政と区民の協働により、まちの魅力を新たに作りながら、それを知り、高め、伝えるまちづくり</p> <p>(5)若者が集い、活力ある文化を発信するまちづくり</p> <p>(6)区民による文化・スポーツ活動の充実と大宮アルディージャとの交流によるまちづくり</p> <p>(7)地域住民相互の交流の活発化、行政と連携したボランティア活動などコミュニティづくりによるまちづくり</p>
	<p>4 自然環境と調和したうるおいのあるまちづくり</p> <p>(1)氷川の杜の緑や見沼田圃の自然などを保全し、憩いの場としての活用</p> <p>(2)緑の拠点づくり、鴨川・鴻沼川・芝川・見沼代用水などを生かした水と緑のネットワーク化</p> <p>(3)街路樹の整備などによる市街地の景観に配慮したゆとりある空間の創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> 氷川神社の緑の増やし方や参道のあり方を検討すべき。飲食等の楽しみを増やすことも重要。 適度に緑が多い。 氷川神社や鉄道博物館がある。 	<p>4 自然環境と調和したうるおいのあるまちづくり</p> <p>(1)氷川の杜の緑や見沼田圃の自然などを保全し、憩いの場としての活用によるまちづくり</p> <p>(2)鴨川・鴻沼川・芝川・見沼代用水などを生かした水と緑のネットワーク化によるまちづくり</p> <p>(3)街路樹の整備などによる市街地の景観に配慮したゆとりある空間の創出によるまちづくり</p>

「見沼区の将来像」(素案)(第3部会(第1回)の意見反映)

	後期基本計画	 主な市民意見 (次期計画に反映した主な意見は青字)	次期総合振興計画 (現行計画からの変更箇所は赤字/審議会意見反映箇所は緑字)
将来像	見沼の自然との共生 —私たちが まもり育てる 見沼の文化— 区民と行政の協働により、見沼の豊かな自然と心のふれあいをまもり、動きやすく、生活しやすい、安全で安心なまちづくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・住みよいまちづくりに向け、行政や住民だけでなく、事業者も協力していく必要がある。 ・見沼、といっても広く、それを表すような表現があれば良いのでは。 ・魅力では広く、共生という雰囲気を出す方がよい。これからも住んでいくという点から、くらし、という言葉が合っている気がする。 ・農業を育てる、といった文言が入っても良いのではないかな。 	見沼の自然との共生 —私たちが まもり育てる 見沼の文化— 区民、 事業者、行政 の協働により、見沼区 の地域資源である豊かな自然や歴史などを守り育てるとともに、ふれあいのある 生活しやすい、安全で安心なまちづくりを推進します。
まちづくりのポイント	1 見沼の自然を生かしたまち (1)見沼の多様な自然の保全・活用とネットワーク化の推進 (2)見沼の自然を生かし、人々が集まり、活動し、交流することのできる、豊かな水と花や緑あふれるオアシスの創造 (3)区民と行政が協働して取り組む、環境や景観に配慮した住宅地の整備、斜面林等の緑地の保全、農業体験や地産地消等を踏まえた農地の保全など自然と調和した土地利用 (4)自然エネルギーの活用促進など、環境負荷の少ないまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルについて、自然を身近に感じられるまちづくり、という表現が良いのでは。 ・見沼区の緑を守る必要があり、そのために制度に基づく規制を検討していく必要があるのでは。 ・駅と見沼たんぼのアクセスなど、人が流れる街づくりの仕組みがあれば良いと考えている。 ・緑を守れという人は多いが、緑を守る人は少ない。ボランティアは有償ボランティアにすべきではないか。 ・見沼たんぼ等、自然が身近にある。 ・見沼の自然を生かし、人々が集まれるところが思い浮かばない。 ・見沼たんぼを活用したイベントを活発にし、住民同士の交流の機会を増やす。 ・見沼区は自然のあるところ、住宅地があるところが分離されており、それらをつなげる憩える場所があれば良い。 ・市民が見沼たんぼに入って行けるような、自然を生かしていく仕組みがあれば、市民と見沼たんぼがつながるのでは。 ・散歩していても休憩する場所がなく、あればもっとPRできるだろう。 ・自然を売りにするのであれば、人が気軽に集える環境を整え、イベントや野菜等の農作物をアピールする取組を行い、発信する必要がある。 ・住み始めたころに比べ、住民と行政が清掃活動に取組ようになり、まちがきれいになってきている。 ・農地の保全に加え、農地の振興があっても良い。農業の振興、活性化という方向であるとよい。 ・地産地消という表現があっても良いのでは。 ・住宅が増え、若い世代の人口が増加している ・農地が近いと、さいたま市産の野菜が身近に入手できる。 ・自然を売りにするのであれば、人が気軽に集える環境を整え、イベントや野菜等の農作物をアピールする取組を行い、発信する必要がある。 	1 見沼の自然を生かし、身近に感じられるまち (1)見沼の多様な自然の保全・活用とネットワーク化の推進 (2)見沼の自然を生かし、人々が集まり、活動し、交流することのできる、豊かな水と花や緑あふれるオアシスの創造 (3)区民、 事業者、行政 が協働して取り組む、環境や景観に配慮した住宅地の整備、斜面林等の緑地の保全、農業体験や地産地消等を踏まえた 農業の振興と 農地の保全など自然と調和した土地利用 <p style="text-align: right;"><u>(写真の変更)</u></p>
	2 人にやさしく、ふれあいのあるまち (1)子どもがのびのびと育ち、高齢者が生き生きと暮らせる、あらゆる人にやさしい、思いやりのある地域づくり (2)見沼の自然や歴史など、地域固有の資源を生かした誇りと愛着の持てるコミュニティの創出と文化の振興 (3)様々な分野の組織や世代を超えた人々が交流できる場や機会の充実と、情報共有の促進 (4)既存施設などの充実や有効活用による、様々な地域活動の活性化に向けた環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりのポイントに「若者、障害者、外国籍の方」という言葉が入っても良いのでは。 ・高齢者が生き生きと、ということは重要だが、高齢者が活躍する場を用意するという趣旨であってほしい。 ・見沼区は広く、同じ区民同士が考えあえる場があればよいのでは。 ・文化、は意味合いが広く、共生というほうが合っている気がする。 ・区役所が行っている活動がPR不足→見える化。 ・地域住民が交流できる場所を増やす。 	2 人にやさしく、ふれあいのあるまち (1)子どもがのびのびと育ち、 若者、高齢者、障害者 が生き生きと 健康に暮らし活動できる、あらゆる 人にやさしい、思いやりのある地域づくり (2)見沼の自然や歴史など、地域固有の資源を生かした誇りと愛着の持てるコミュニティの創出と文化の振興 (3)様々な分野の組織や世代を超えた人々が交流できる場や機会の充実と、情報共有の促進 (4)既存施設などの充実や有効活用による、様々な地域活動の活性化に向けた環境づくり
	3 動きやすく、生活しやすいまち (1)子どもから高齢者までが移動しやすい、電車・バス・自転車による交通網の充実と、駅や区役所など主要施設へのアクセス性の向上 (2)スポーツ施設間の連携促進と気軽に運動しやすい環境づくり (3)駅周辺の活性化や下水道の充実など、暮らしやすい生活基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルの「動きやすい」は「動きたくなる」の方が良いのでは。 ・高齢化率を考えると交通網を整備すべきである。 ・自転車専用道路を整備するのはよいが、車道を整備した後に、道幅を考えて整備してほしい。 ・障害者や高齢者にとって、体育館や駐車場などの段差の問題やスロープが無かったりなどする(バリアフリー化)。 ・公共施設の利用環境を改善したい。 ・スポーツ施設を使った高齢者の健康維持の取組み。 ・道幅が狭く子供の通学に影響しているのでは。また交通マナーが悪く、改善されればよい。 ・区画整理が遅れていて東大宮周辺の道路がいらくんでいる。 	3 動きやすく、生活しやすいまち (1)子どもから高齢者までが移動しやすい、電車・バス・自転車による交通網の充実と、駅や区役所など主要施設の バリアフリー化と アクセス性の向上 (2)スポーツ施設間の連携促進と気軽に運動しやすい環境づくり (3)駅周辺の活性化や、 道路、 下水道の充実など、暮らしやすい生活基盤づくり
	4 地域ぐるみで進める安全・安心なまち (1)地域と行政の連携による防災・防犯・交通安全対策の推進 (2)歩行者や自転車が安全に、安心して利用できる道路環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・防災の観点からは、通学路に空き家や倒壊の危険性があるブロック塀などがあり、対応をして欲しい。 ・木造住宅が多く延焼の危険性がある。また救急車・救急車が入れない可能性もあり、区画整理をやったほうが良いのでは。 ・地域には企業があり、それら企業と協働できるまちづくりの仕組み作りがあってもよいのでは。 ・自転車が安心して通れる道があれば、区全体のネットワークが出来、交流が深まるのでは。 ・通学路における子供の安全や、子供と高齢者の居場所づくりに取り組む必要がある。 	4 地域ぐるみで進める安全・安心なまち (1) 区民、事業者、行政 の連携による防災・防犯・交通安全対策の推進 (2) 子どもから高齢者までの 歩行者や自転車が安全に、安心して利用できる道路環境の整備 <p style="text-align: right;"><u>(写真の追加)</u></p>

「中央区の将来像」(素案)(第3部会(第1回)の意見反映)

	後期基本計画	主な市民意見 (次期計画に反映した主な意見は青字)	次期総合振興計画 (現行計画からの変更箇所は赤字/審議会意見反映箇所は緑字)
将来像	ふれあい 調和のとれた都市文化の創造と交流が育てる安心なまち 中央区には、古くから引き継いできた歴史と文化の薫る街並みと家族のような人々の深いつながりがあります。その従来から培われた伝統を生かしながら、さいたま新都心を中心とする都市の魅力を加え、安全・安心な“美しいまち”“美しい心があふれるまち”を創り、次の世代に伝えていくため、人々が積極的に発言し、主体的に行動するまちを目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 都市文化については、変えた方がよい。「調和のとれた都市文化」のイメージが湧かない。 中央区に多くの組織がある中で、「交流が育てる安心なまち」を進めていくことが重要。このフレーズはよい。 中央区としてPRできるものがあつたらいいと思う。 	ふれあい 歴史と文化の調和のとれた都市の創造と交流が育てる安心なまち 中央区には、古くから引き継いできた歴史と文化の薫る街並みと家族のような人々の深いつながりがあります。その従来から培われた伝統を生かしながら、さいたま新都心を中心とする都市の魅力を加え、安全・安心な“美しいまち”“美しい心があふれるまち”を創り、次の世代に伝えていくため、人々が積極的に発言し、主体的に行動するまちを目指します。
	1 区の特徴を生かした魅力的な街並みと緑豊かな環境づくり (1)区の花バラや与野の大カヤ、鴻沼川の桜、蔵造りの街並みなど、自然や資源の保全・活用・充実 (2)公園などのまとまった緑の保全・充実、そうした緑の拠点を川や道を利用してつなぐ緑のネットワークの形成 (3)ごみの減量化やリサイクル、省エネルギーなどの環境保全活動や道路・公園の清掃などの環境美化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 川沿いの道を歩きやすくすべき。桜がきれいなのでベンチを置いてはどうか。 高沼用水の護岸に歩道が整備されるとよい。 鴻沼はもう少し力を入れて水と緑と花のネットワークの中で重点化すべきだ。 公園が多く子育てがしやすい。 	1 区の特徴を生かした魅力的な街並みと緑豊かな環境づくり (1)区の花バラや与野の大カヤ、鴻沼川の桜、蔵造りをはじめ歴史を感じる街並みなど、自然や資源の保全・活用・充実 (2)公園などのまとまった緑の保全・充実、そうした緑の拠点を川や道を利用してつなぐ緑のネットワークの形成と川辺の整備 (3)ごみの減量化やリサイクル、省エネルギーなどの環境保全活動や道路・公園の清掃などの環境美化活動の推進
	2 地域資源を生かした、調和のとれたにぎわいづくり (1)街並みや緑、歴史・文化などの古くからある資源とさいたま新都心や彩の国さいたま芸術劇場などの新しい資源を生かした、古いものと新しいものの調和 (2)さいたま新都心を中心とした、地域全体の魅力向上と地域の均衡ある発展 (3)JR埼京線沿線の未利用地や道路空間などを有効活用した人々の集まる新たな空間の形成 (4)活気ある商店街と地域社会を支える産業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> スーパーアリーナ・芸術劇場があり、文化施設・イベントが充実。 芸術劇場周辺に若手アーティスト(役者、音楽家、作家等)に住んでもらう。アート地区を目指す。 大宮・浦和の間にあり、利便性が良い。 イメージシンボル、アピール不足。 ガード下の有効活用。 駅の沿線環境整備。 本町通りの活性化が必要。一方通行にして子どもを中心に歩行者の安全を向上させる必要がある。 駅前に生活利便施設が少ない。 	2 地域資源を生かした、調和のとれたにぎわいづくり (1)街並みや緑、歴史・文化などの古くからある資源とさいたま新都心や彩の国さいたま芸術劇場などの新しい資源を生かした、古いものと新しいものの調和 (2)さいたま新都心を中心とした、地域全体の魅力向上と地域の均衡ある発展 (3)JR埼京線沿線の未利用地や道路空間などを有効活用した人々の集まる新たな空間の形成 (4)活気ある商店街と地域社会を支える産業の活性化
	3 学びと交流を通じた、地域の誇りと愛着を持つ人づくり (1)明日を担う健全な子どもたちの育成と地域の特性を生かした教育の推進 (2)地域の歴史・伝統・文化や人材を活用した生涯学習や人づくりの実践 (3)子どもから高齢者に至るまで、幅広い世代における地域との関わりや交流を創出する仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 子どもにとってよいふるさと、誇りの持てる街を作りたい。 学びと交流とあるが、高齢者の社会参加の勧めが重要。老人会の加入率は20%。 今すぐに高齢化に対するビジョンが必要。子どもも同じ。高齢者の居場所、子どもの遊び場が少ない。 1丁目ごとに20坪の居場所があればよく、15時頃までは高齢者、それ以降は子どもが利用すればよい。 高架下の有効利用が重要。午後3時頃まで高齢者、それ以降は子どもが利用すればよい。 居場所については、雨風が凌げればプレハブでよい。トイレとキッチンがあれば高齢者は集まって談義することを好む。 障害者福祉会も高齢化が進んでおり、近年障害別に活動している。 まちかどでお茶ができればよい。郊外よりまちなかが重要だ。 	3 学びと交流を通じた、地域の誇りと愛着を持つ人づくり (1)明日を担う健全な子どもたちの育成と地域の特性を生かした教育の推進 (2)地域の歴史・伝統・文化や人材を活用した生涯学習や人づくりの実践 (3)子どもから高齢者に至るまで、幅広い世代における地域との関わりや交流の場、スポーツができる機会の創出
	4 ふれあいと支え合いによる、安全・安心と生きがいのある地域づくり (1)地域で安心して、子どもを産み育てられる環境と、子どもたちの健やかな成長を支える場や機会の提供 (2)地域福祉における支え合いのネットワークづくりや交通手段の確保、交通マ-の向上等による高齢者や障害者をはじめとした区民の安全・安心で生き生きとした暮らしの確保 (3)災害時における区民自らの役割である自助と地域で支え合う共助、行政の役割である公助などによる安全・安心な地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> バイパスの西側のアクセスは悪くないが、高齢者施設や障害者施設が集中し、交番がないなど子どもが寄れるところが少ない。 治安が良い。 公園が多く子育てがしやすい。 安全安心が重要であり、高齢者にとっては、車がないと外に出かけられない状況にある。 高齢者や子どもにとって安心して通れる、歩ける道路が重要で、コミュニティバスも検討してほしい。 本町通りの活性化が必要。一方通行にして子どもを中心に歩行者の安全を向上させる必要がある。 高齢者の買物のためにバスが必要。 子ども自転車免許の取組の中で、父母が交通ルールを知ることが重要。マ-の前にルールである。 安全安心なまちづくり、歩行者と自転車専用道の増設等。 	4 ふれあいと支え合いによる、安全・安心と生きがいのある地域づくり (1)地域で安心して、子どもを産み育てられる環境と、子どもたちの健やかな成長を支える場や機会の提供 (2)地域福祉における支え合いのネットワークづくりや交通手段の確保、安全な道路の整備、交通マ-の向上等による子どもや高齢者・障害者をはじめとした区民の安全・安心で生き生きとした暮らしの確保 (3)災害時における区民自らの役割である自助と地域で支え合う共助、行政の役割である公助などによる安全・安心な地域づくり (写真キャプションの修正 避難場所⇒避難所)
5 区民との協働による地域に根ざしたまちづくり (1)主要な公共施設の再編整備等における、区民と共に進めるまちづくり (2)地域を支える自治会をはじめとした各種団体への加入促進による地域活動の活性化 (3)区民の自主的な活動と連携の積極的な支援によるコミュニティの充実 (4)区民と行政の協働の仕組みづくりと協働の実践の機会の創出 (5)地域に根ざした従来からのきめ細かいサービスの維持・向上と、他区との連携による新しいサービスの展開	<ul style="list-style-type: none"> 振興会では年2回イベントを実施している。春にスポーツフェスティバル、秋にハイキングである。 外国人が多いという話だが、2020年に多くのボランティアが必要となる。民泊を含め交流への準備が必要となる。 大宮・浦和の間にあり、利便性が良い。 	5 区民との協働による地域に根ざしたまちづくり (1)主要な公共施設の再編整備等における、区民と共に進めるまちづくり (2)地域を支える自治会をはじめとした各種団体への加入促進による地域活動の活性化 (3)区民の自主的な活動と連携の積極的な支援によるコミュニティの充実 (4)区民と行政の協働の仕組みづくりと協働の実践の機会の創出 (5)地域に根ざした従来からのきめ細かいサービスの維持・向上と、他区との連携による新しいサービスの展開	

まちづくりのポイント

「桜区の将来像」(素案)(第3部会(第1回)の意見反映)

	後期基本計画	主な市民意見 (次期計画に反映した主な意見は青字)	次期総合振興計画 (現行計画からの変更箇所は赤字/審議会意見反映箇所は緑字)
将来像	<p>三世代がつくる元気印のまち —自然あふれる住みよい環境— 桜区には、桜草公園から続くグリーンベルトをはじめ、数多くの歴史的・文化的資源のほか、伝統ある埼玉大学、区民の活動拠点となるプラザウエストやスポーツ施設などがあります。今後、これらの地域資源を生かし、子どもから高齢者まですべての区民が生き生きと活動でき、ずっと住みたいと思えるまちを目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「三世代」というのも他の都市で掲げているのではないか。 ・「豊かな生活文化があるまちづくり」という言葉を入れてみては。 ・区としてのテーマを明確にする。 	<p>三世代がつくる元気なまち —自然があふれ、人々がふれあう住みよい環境— 桜区は、西側を荒川が流れ、桜草公園、秋ヶ瀬公園から続くグリーンベルトや数多くの歴史的・文化的財産のほか、知的財産である埼玉大学、区民の活動拠点となるプラザウエストやスポーツ施設などがあります。これらの地域資源を生かし、豊かな生活文化を育むことにより、子どもから高齢者まですべての区民が生き生きと活動でき、住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。</p>
	<p>1 「自然」と「便利さ」の調和する、住みやすいまちづくり (1) 自然と調和し、生活環境の整った、安らぎのある住みよいまちづくり (2) 地域の産業の活性化と、これを生かした、ふれあいやにぎわいを生むまちづくり (3) 公共交通の充実と、自動車・車いす・人・自転車安心してスムーズに移動できる道路の整備など交通環境の向上 (4) 自然資源や歴史的・文化的資源などの保全と、これら地域の財産を生かしたまちづくり (5) 一人ひとりの意識の向上と、地域の人々と行政のみならずごみの減量化・リサイクルの推進によるきれいなまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・秋ヶ瀬公園周辺のスポーツ施設などの活用を。 ・自然が多い。 ・西浦和駅周辺はバイパスからの出入りが分かりづらく、乗り入れしづらい。 ・車に頼らざるを得ない地域が多い。交通の便が悪い。 ・埼玉大学に駅から歩いて行けない。 ・歩道が狭いなど、安全に通れる道路が少ない。 ・桜区のよいところをもっとPRすべき。 ・企業誘致が進んでいない。 ・観光やイベントの企画を増やして、昼間にも活気ある区を目指す。 	<p>1 自然と便利さが調和する、住みやすいまちづくり (1) 豊かな自然や歴史的・文化的財産の保全と、それらの積極的な活用 (2) 地域産業の活性化と、地域資源を生かした、ふれあいやにぎわいの機会の創出 (3) 地域に密着した道路整備などによる生活環境の向上 (4) 駅へのアクセスを含めた公共交通の充実などによる利便性の向上</p>
	<p>2 子ども、高齢者、障害者にやさしく、元気に暮らせるまちづくり (1) 安心して、しっかりと子育てのできるまちづくり (2) 子どもたちと地域の住民や大学生などが関わりを深めながら、たくましく育つまちづくり (3) 高齢者や障害者が暮らしやすく、元気に活躍できるまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代や地域間交流が可能となるイベントやお祭りなどを区全体で盛り上げるべき。 ・埼玉大生と地域住民が協働して学習塾を開いている。 ・高齢者の交流が課題。集まれる場所が少ない。 ・子ども、高齢者、障害者にやさしいまちづくりが重要。 ・こども食堂を検討しては。 	<p>2 子ども、高齢者、障害者など、すべての人にやさしいまちづくり (1) 地域に暮らす様々な世代が支え合う、安心してしっかりと子育てができる環境の整備 (2) 子どもたちの健全育成に向けた、地域の人々や大学生などとの交流の促進 (3) 高齢者の健康づくり支援と、地域における支え合いの推進 (4) 誰もが生き生きと暮らし、元気に活躍し続けるための機会の充実</p>
	<p>3 みんなが仲良く安全に安心して暮らせるまちづくり (1) 防災・防犯に行政と住民が協働して取り組む、安全で安心なまちづくり (2) 古くから住んでいる住民と新しい住民の交流や多世代の交流など、住民がコミュニケーションを深めながら、互いに連携し、誰もが参加して活動を継続できるコミュニティづくり (3) 自治会活動やボランティア活動など、子どもから高齢者までの地域住民の活動が盛んなまちづくり (4) 誰もが気軽に参加できる住民活動の機会や環境の充実 (5) 埼玉大学の英知や若さと連携したまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時、特に水害時に高齢者をどう避難させるか、具体的な防災計画が必要。 ・鴻沼川や鴨川の氾濫想定周知が足りない。 ・地域内のコミュニケーションが課題。見守りなどボランティア活動を活発にすることが必要。 	<p>3 安心して暮らせる安全なまちづくり (1) 地域の人々と行政が協働して取り組む、地震対策や風水害対策の強化と防災意識の醸成 (2) 地域の人々と行政が協働して取り組む、防犯活動や交通安全運動の推進</p>
<p>4 みんなでつくるまち (1) 「住民のやる気」を育む仕組みづくり (2) 地域の人々と行政が様々な情報を発信し合い、協働し、信頼関係を生み出すまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動等に取り組んでいる多くが高齢世代。各世代による参加者をもっと増やしたい。 ・世代間交流のイベント開催、公園を活かしたイベント開催などのコミュニティづくり。 ・埼玉大は国内外から学生が集まり、人的・知的資源にあふれている。子どもたちと埼玉大生との交流や、優れた技術で桜区に貢献してほしい。 	<p>4 すべての人が参加するまちづくり (1) 自治会をはじめとする各種団体などと行政が協働して取り組む、地域活動の推進 (2) 地域に暮らす誰もが気軽に交流し、連携して活動することのできる機会の充実 (3) 地域の人々と行政が協働して取り組む、環境美化活動の推進 (4) 埼玉大学の英知の活用や若さあふれる感性との交流の促進 (5) 地域の人々と行政が情報を共有し、協働することによる、信頼関係に基づくまちづくりの推進</p>	

「浦和区の将来像」(素案)(第3部会(第1回)の意見反映)

	後期基本計画	主な市民意見 (次期計画に反映した主な意見は青字)	次期総合振興計画 (現行計画からの変更箇所は赤字/審議会意見反映箇所は緑字)
将来像	<p>にぎわいと文教の調和する緑豊かなまち 一ワクワク浦和区、わたしの明日をつくるまち、わたしが明日をつくるまち 浦和宿に代表される歴史と文化を伝える文教都市・浦和区は、都心としてにぎわいのある地区と、緑豊かな落ち着いた住環境の地区の2つが共存しています。この特性を踏まえ、住み続けたいまち、行ってみたいと思えるまちとしての魅力を一層高めるため、地域に住む人々の参加と協働を基本に、浦和区の歴史、文化、環境の資産を生かしたまちづくりを進めます。</p>	<p>・郷土愛、住む人が街を愛する、といった言葉を区の将来像のタイトルの下に入れる。</p>	<p>にぎわいと文教の調和する緑豊かなまち 一ワクワク浦和区、わたしの明日をつくるまち、わたしが明日をつくるまち 浦和宿に代表される歴史と文化を伝える文教都市・浦和区は、都心としてにぎわいのある地区と、緑豊かな落ち着いた住環境の地区の2つが共存しています。この特性を踏まえ、住み続けたいまち、行ってみたいと思えるまちとしての魅力を一層高めるため、地域に住む人々の参加と協働を基本に、浦和区の歴史、文化、環境の資産を生かした郷土愛があふれるまちづくりを進めます。</p>
まちづくりのポイント	<p>1 世代や文化、地域を超えた多様な交流のあるコミュニティづくり (1)身近な地域での交流や活動の活発化によるコミュニティ意識の醸成 (2)地域住民が交流し、地域をより深く知り、考える場や機会の積極的な創出 (3)地域住民と行政の協働を実現するための環境の整備 (4)世代や文化、居住する地域など様々な差異を超えて人々がふれあい、だれもが楽しく活動し、人々の理解と共感が広がるまちづくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が地域に参加するようになるには、都内で働いている人たちの地元愛を育む必要がある。 ・自治会については「まちづくりのポイント1」で、自治会活動を通じて、という言葉を入れては、 ・高層マンションが非常に増えている中で生活文化が異なる人々が多く入ってくることが予想され心配。 ・地域リーダーとして若い人を育成する必要がある、中学生、高校生が区政に参加する仕組みが必要。 ・市役所の広場の有効活用(イベントを増やす)。 ・新たな住人達の入りやすい地域活動。 ・子どもと高齢者の交流イベント。 	<p>1 多様な交流のあるコミュニティづくり (1)身近な地域での交流や活動の活発化によるコミュニティ意識の醸成 (2)地域住民が交流し、地域をより深く知り、考える場や機会の積極的な創出 (3)地域住民と行政の協働を実現するための環境の整備 (4)世代や文化、居住する地域など様々な差異を超えて人々がふれあい、だれもが楽しく活動し、人々の理解と共感が広がるまちづくりの推進</p>
	<p>2 文教都市などの「浦和ブランド」を活用した魅力あるまちづくり (1)子どもたちの夢と希望をはぐくむ、地域に密着した教育の推進 (2)生涯を通じた学びの場と機会の拡充 (3)恵まれた伝統ある教育・文化・スポーツ資源を活用した、芸術・文化活動の振興 (4)旧中山道や神社仏閣が伝える歴史、サッカーやうなぎのまちとしての特性などを生かした区の魅力の向上と情報発信力の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年生でサッカー大会を行い卒業するというのは日本全国でも浦和だけ。このような小さな頃からの取組みがまちの歴史につながるのでは。 ・浦高に入れるために浦和に引っ越し人もいと聞るので、文教都市として浦高や一女をもう少しPRしてはどうか。 ・新しい住民が増える中で、まちの文化・歴史を知った上で新しいことにチャレンジすることが重要と考えている。 ・うなぎを含め浦和区として、地域の魅力として発信したいものの広報の方法を工夫すべきでは。 ・ケーキやパンの消費量が全国1位、2位だとテレビの情報番組で聞いており、そのような点に焦点を当てるべきでは。 ・まちの文化・歴史の情報発信の方法が重要。 ・うなぎの店舗が少なくなり知名度の減少につながっている。 ・うなぎ以外の名産も売り出していけば区のイメージ向上になるのではないか。 ・自治会でウォーキングをし、うなぎを食べに行くイベントを開催したが、参加した小学生も喜んで食べていた。そういったことを通じて広げていくのも一つの手だと思う。 ・その他ベッドタウンとの差別化。 	<p>2 「浦和ブランド」を活用した魅力あるまちづくり (1)子どもたちの夢と希望をはぐくむ、地域に密着した教育の推進 (2)生涯を通じた学びの場と機会の拡充 (3)恵まれた伝統ある教育・文化・スポーツ資源を活用した、芸術・文化活動の振興 (4)旧中山道や神社仏閣が伝える歴史、サッカーやうなぎのまちとしての特性の活用や、新たな浦和ブランドによる区の魅力の向上と情報発信力の強化</p>
	<p>3 東西が連携し、一体性と「にぎわい」のあるまちづくり (1)鉄道と挟んだ東西連携による一体的なまちづくり (2)駅周辺などにぎわいの拠点や商店街の持つそれぞれの魅力を再発見、活用した、誰もが訪れやすい活気のあるまちの再生と創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、商店街の組織的な活動が難しくなっている。商店街にチェーン店が増加していることも一因。 ・若い人たちが集まるまちづくりが必要になる。 ・商店街の活性化には魅力あるまちづくりが課題だが、商店街だけでなく区民全体の課題だと思う。 ・商店街は子どもの見守りや対話が生まれる場であるなど、まちが一体化する原点であった。 ・商店街の活性化には基盤となる人対人の関係が大事になる。 ・商店街の衰退。 ・駅前商業施設が充実している。 	<p>3 一体性と「にぎわい」のあるまちづくり (1)鉄道を挟んだ東西連携による一体的なまちづくり (2)駅周辺などにぎわいの拠点や商店街の持つそれぞれの魅力を活用した、若い世代を中心に誰もが訪れやすい活気のあるまちづくりの推進</p>
	<p>4 ひとにやさしい誰もが安心して暮らせるまちづくり (1)交通事故、犯罪などの危険や騒音のない、誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進 (2)災害に強く、安全、快適な都市空間の創出 (3)誰もが安心して移動できる環境の整備 (4)仕事と介護や子育ての両立支援を含む、高齢者や障害者、子育てに対する総合的な支援体制の充実 (5)高齢者や障害者の自立と支援、子育てなどを互いに助け合い、誰もが元気に活動できる地域づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの在り方としては安全安心を第1に考えることも1つの方法では。 ・道路の段差や交通マナーが気になる。マナーや食文化を伝えていくには小さいころからの教育が重要。 ・治安が良い。 ・駅周辺の環境(自転車、渋滞)。 ・通学路など危険だと感じるところが多い。 ・地元坂が多く、高齢者の買物が難しくなっている。 ・将来像についてはこの様な買い物難民についての対策も考えていただきたい。 ・通学路など危険だと感じるところが多い。 ・保育園、学童(放課後児童クラブ)の不足。 ・保育所の整備、保育士の確保、または子どもと高齢者のマッチング。 	<p>4 ひとにやさしい誰もが安心して暮らせるまちづくり (1)交通事故、犯罪などのない、誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進 (2)災害に強く、安全、快適な都市空間の創出 (3)誰もが安心して移動できる環境の整備 (4)仕事と介護や子育ての両立支援を含む、高齢者や障害者、子育てに対する総合的な支援体制の充実 (5)高齢者や障害者の自立と支援、子育てなどを互いに助け合い、誰もが元気に活動できる地域づくり</p>
	<p>5 緑豊かな美しい街並みとゆとりある住環境を創出するまちづくり (1)中高層住宅と周辺環境とが調和した、ゆとりと潤いのある住環境の維持・創出 (2)緑豊かな美しい街並みづくりなど、地域の環境向上に向けた住民参加による取組の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高層マンションが非常に増えている中では、生活文化が異なる人々が多く入ってくることが予想され、心配している。 ・外国人も含め多様な人が入ってきている。またマンションが立ち並び景観も失われている。 ・浦和駅西口の再開発で浦和駅周辺が変わっていけば浦和区も変わっていくのではないか。 ・緑が減ってきているように感じるが、公園にも緑を増やし子どもたちが自然の中で暮らすようにすれば、両親もずっと住み続けたいと思うのでは。 	<p>5 緑豊かな美しい街並みとゆとりある住環境を創出するまちづくり (1)中高層住宅と周辺環境とが調和した、ゆとりと潤いのある住環境の維持・創出 (2)緑豊かな美しい街並みづくりなど、地域の環境向上に向けた住民参加による取組の推進</p>

「南区の将来像」(素案)(第3部会(第1回)の意見反映)

	後期基本計画	主な市民意見 (次期計画に反映した主な意見は青字)	次期総合振興計画 (現行計画からの変更箇所は赤字/審議会意見反映箇所は緑字)
将来像	<p>あなたが主役 住んでよかったまちづくり</p> <p>南区は、本市の南の玄関口として、交通や生活利便性の高さから、若い世代を中心に人口流入が続いています。区民ニーズが多様化する中で、生活環境の整備を進めるとともに、住民相互の交流や住民活動の活性化を図りながら、郷土愛を醸成し、長く住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。</p>	<p>これからの将来像として、新しく住む人も、これまで住んでいた人も、男性も女性も交流できるようにしたい。</p>	<p>「にぎわい」と「安心」が調和する 住んでよかったまち</p> <p>利便性を生かしたまちづくりや世代を越えた交流によるにぎわいの創出、共に支え合える人々の温かさや別所沼等の自然、歴史・文化から得られる安心感により、多くの人を呼び、誰もが南区の良さを実感し、心から住んでよかったと思えるまちを目指します。</p>
まちづくりのポイント	<p>1 人と地域が結び付く、活力あふれるまちづくり</p> <p>(1) 区民の自主的な活動とコミュニケーションの活性化により、世代間の交流と地域社会に参加できるまちづくり</p> <p>(2) 行政とのパートナーシップの構築を通じた協働によるまちづくり</p> <p>(3) 誰もが楽しめる交流・活動拠点の充実によるまちづくり</p> <p>(4) 地域のイベントがなくなると区民のふれあいによるまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 南区は若い世代が増えているが、学校だけのあいさつ運動だけでなく、大人を巻き込んだ活動を今後すべきと考えている。 将来的にコミュニケーションの場として、傾聴ボランティアなど、コミュニケーションの場を作ってもらえれば。 人口が増えているが自治会に入らない人が多く、行政の支援をお願いしたい。 まちづくりの実施方法について、行政内や地域の団体間で横の連携が重要になる。そのリンクをとるのが自治会ではないかと考え、ポイントになると考えている。 以前に比べ公民館が利用できなくなった。公民館を借りやすい状況を作っていただきたい。 地域で飲食の提供をしているが、活動をする場所の確保が難しく、空き家の利活用を検討できないか。 今後児童センターの様な施設を作る場合、子供と高齢者が集える場所を作してほしい。 公民館について、民間企業が職員となりコミュニケーションがとりにくくなっている。 地形を活かした遊び場(別所沼、競馬場等)。 新しく住む人も、これまで住んでいた人も、男性も女性も交流できるようにしたい。 南浦和駅、武蔵浦和駅の精神的距離感を縮める活動があっても良いのでは。 祭りなど昔からのイベントが残っている。 	<p>1 人と地域が結び付く、活力あふれるまちづくり</p> <p>(1) 区民等の自主的な活動とコミュニケーションの活性化により、多世代が交流し地域社会に参画できるまちづくり</p> <p>(2) 区民・団体・事業者・行政のパートナーシップの構築を通じた協働によるまちづくり</p> <p>(3) 誰もが楽しめる活動・交流拠点の充実によるまちづくり</p> <p>(4) 地域のイベントを通じた区民等のふれあいによるまちづくり</p>
	<p>2 子どもから高齢者まで元気に健康で暮らせるまちづくり</p> <p>(1) 若い世代が多いという地域の特性を踏まえた、子育てしやすいまちづくり</p> <p>(2) 一人ひとりが健康を維持・増進できるよう、互いに支え合うまちづくり</p> <p>(3) 家庭、地域社会と連携した学校教育による明日の時代を担う青少年の育成</p> <p>(4) 誰もが文化・芸術に親しめるまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃんを行政と共に住民が支えているという取組みを入れていただきたい。 経験を伝えるなどして子育てをフォローして、内容を行政に報告しているが、民生委員の活動にも限度がある。 子供を小さな地域の中ではなく、区全体で支えることが必要だ。 勉強やコミュニケーション等、子どもの居場所がなく、公民館、図書館の環境を整えていただきたい。 南区では若い世代の流入もあるが高齢者は年々増える一方である。 高齢者が増加する中で南区に大きな病院がないことを心配している。 	<p>2 子どもから高齢者まで健康で元気に暮らせるまちづくり</p> <p>(1) 若い世代が子育てしやすいと思えるまちづくり</p> <p>(2) 一人ひとりが健康を維持・増進できる、互いに支え合うまちづくり</p> <p>(3) 家庭・地域社会・行政が連携し、子どもの成長をはぐくみ、健全な青少年を育成するまちづくり</p> <p>(4) 誰もが文化・芸術・スポーツに親しめるまちづくり</p> <p>(5) 高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり</p>
	<p>3 安全・安心なまちづくり</p> <p>(1) 事故や犯罪のない安全・安心なまちづくり</p> <p>(2) 地震や水害などの災害に強いまちづくり</p> <p>(3) 防災・減災を目指したまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区の中で、ウォーキングする道に車が入れないようにすべきである。 通学路について危険・不安な箇所がある。 交通事故ゼロ、詐欺対策、子供の虐待対策、といったことを将来像に盛り込んでほしい。 自治会の防災庫が、世帯が多い関係で一杯になってきている。したがって防災庫を増やすようお願いしたい。 防災について、中学生が地域の役に立つような仕組みを考えてはどうか。 行政の支援だけでなく、住民同士の協働でも災害を乗り越えるということを発信したい。 	<p>3 安全・安心なまちづくり</p> <p>(1) 事故や犯罪のない安全・安心なまちづくり</p> <p>(2) 地震や水害などの災害に強いまちづくり</p> <p>(3) 区民相互の支え合いによる安心を感じるまちづくり</p>
	<p>4 自然や歴史を大切にしたい情緒豊かなまちづくり</p> <p>(1) 計画的な水と緑の保全と、公共空間や民有地の一体的な緑化を推進するまちづくり</p> <p>(2) 地域資源の発掘・活用による、地区の個性と郷土愛をはぐくむまちづくり</p> <p>(3) 古いものと新しいものが調和したまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自然や歴史のあるまち。 祭りなどのイベントが残っている。 対内外への情報発信力のあるまち。 南区の花ひまわりをもっと前面に。 	<p>4 自然や歴史・文化を大切にしたい郷土愛をはぐくむまちづくり</p> <p>(1) 別所沼等の水や緑の保全、公共空間や民有地の緑化の推進による緑豊かなまちづくり</p> <p>(2) 地域資源の発掘・創造により、地域の個性を高め、郷土愛をはぐくむまちづくり</p> <p>(3) 古き良き歴史・文化と新しいまちが調和するまちづくり</p>
	<p>5 都市環境が整った快適なまちづくり</p> <p>(1) 地域特性を踏まえた、駅とその周辺整備による暮らしやすいまちづくり</p> <p>(2) 誰にもやさしい交通網の整った便利なまちづくり</p> <p>(3) 利便性の高い安全な道路や、公共下水道などの生活基盤の整備による、快適な生活環境を備えたまちづくり</p> <p>(4) 一人ひとりの環境への関心を高め、理解を深めることにより、省資源・省エネルギーの環境負荷に配慮したまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 南浦和駅利用者から、東口に喫煙所を望む声がある。東口ではボイ捨ても多く問題になっている。 駅について、会社の人員不足もあり、将来的には切符や窓口なども無くなる方向である。 駅に高齢者が一時的に座れるような場所があればよいと思う。 武蔵浦和駅の改札を出て降りる階段の暗さが危険である。 駅前で完結するコンパクトな都市。 街がきれい、落ち着いている。 出かける場所が他エリアになってしまう。 ランドマークのような施設がなく、交通が活かしきれいない。 南区は一人当たりの公園面積が少なく触れるべきでは。また運動にも触れるべき。 	<p>5 都市環境が整った快適なまちづくり</p> <p>(1) 駅とその周辺整備等による、活気があり暮らしやすいまちづくり</p> <p>(2) 誰にもやさしい交通網の整った便利なまちづくり</p> <p>(3) 利便性の高い安全な道路等の生活基盤の充実による、快適な生活環境を備えたまちづくり</p> <p>(4) 一人ひとりの環境への関心が高く、省資源・省エネルギーの環境負荷に配慮したまちづくり</p>

「緑区の将来像」(素案)(第3部会(第1回)の意見反映)

	後期基本計画	主な市民意見 (次期計画に反映した主な意見は青字)	次期総合振興計画 (現行計画からの変更箇所は赤字/審議会意見反映箇所は緑字)
将来像	ホテル舞い・風かおる緑の街 見沼田圃や武蔵野の面影を残す雑木林、斜面林など、地域の豊かな緑を大切にしながら、自然環境と調和した生活を実現し、住んで楽しい心の通い合うまちづくりを住民参加により進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・区の将来像について、緑区で夢と希望を持てる、ということを示すタイトルが良いのでは。 ・例えば緑区の特色を生かしながら、住んで良かった緑区、住みたい街緑区、といったものが考えられる。 ・10区の中でこの様な将来像を描ける区は他にないのではないか。 ・区の将来像は素晴らしいと考えている。 	ホテル舞い・風かおる緑の街 見沼田圃に代表される自然環境の豊かさ、人々のさわやかさや躍動感、緑の多いゆとりある良好な住宅地・発達した街という将来像に込められた想いを大切にしつつ、夢と希望の持てる住みやすいまちづくりを区民と行政との協働により進めます。
まちづくりのポイント	1 郷土愛を育てるまちづくり (1)誰もが参加でき支え合うコミュニティづくりと地域のリーダーとなる人材育成の支援 (2)地域の文化財などの歴史・文化資源を活用し、子どもの時から自分のまちに関心を持つ、我がまちを誇りとするひとづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と若い人が多くなっているが、自治会の構成など、高齢者と若い人とのバランスも重要。 ・自治会の加入者が少なく、行政が区の加入を促す取り組みも必要では。 ・案山子の発祥記念碑の写真があるが、今の子供たちは童謡を知らない状況。 ・緑区のシニアクラブの加入率は10区で一番低く、支援をお願いしたい。 ・小学生でもお年寄りでも、人が行き交う場所がある街であるとよい。 ・「誰もが参加でき支え合うコミュニティづくり」の内容を具体的にしたい。また取り組み内容の情報発信力を高める必要があるのではないか。 ・花いっぱい活動を広範囲で区が推進していくと良い。 ・田んぼ等があると子供たちは遊びにやってくる。そのような環境を取り戻すことに力を入れてほしい。 ・住民のつながり強化 ・子どもたちが地域活動に参加する仕組みづくりができると良い。 ・アンケートから緑区への親しみ度合いが低い結果になっているが、愛着や誇りを育む対策を行うべき。 ・「地域の文化財などの歴史・文化資源を活用し」の内容を具体的にすべき。 ・具体的例としては休憩所の設置や見沼にビジターセンターを設置することなどがある。 	1 郷土愛を育てるまちづくり (1)地域活動の機会創出と参加促進、地域のリーダー育成の支援 (2)まちの魅力を共有できる世代間交流と地域間交流の促進 (3)見沼田圃などの地域資源や歴史・文化資源を活用し、子どもの時から自分のまちに関心を持つ、我がまちを誇りとする人づくり
	2 生活者に優しいまちづくり (1)子育て支援、介護を必要とする人と介護をする人に対する支援の充実による、誰もが暮らしやすいまちづくり (2)歩行者や自転車利用者が安全に利用できる道路環境の整備 (3)地域の人と人とのつながりを深め、防災・防犯に関する意識の高揚と対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも緑区を住んでいて安全安心で住みよい街にしたい。 ・浦和区、西区のようにスポーツ施設の充実も重要ではないか。 ・「子育て支援」、「介護」が同じ項目に記されているが、別に項目立てする必要があるか。またこの中には若者の支援、障害者への支援項目もあってよいのでは。 ・高齢者の行く場所、集まる場所がないことが課題になっており、検討していただきたい。 ・バリアフリーの町。高齢化への対応。 ・歩道が整備されている(街路樹付き)。 ・公共交通機関が充実している(東北道の起点がある)。 ・交通渋滞が多い。 ・混合交通に対応した道路整備。 ・交通マナーの悪化への対応。 	2 健康に暮らせるまちづくり (1)子育て世代や若い世代への支援の充実 (2)高齢者や障害者、介護をする人々への支援の充実 (3)人が集い行き交いながら、ともに支えあう意識の醸成 (4)いつまでも元気で暮らせる健康づくりの支援
	3 自然と共生するまちづくり (1)緑豊かな環境を生かし、その保全に配慮したまちづくり (2)見沼田圃の農地や斜面林、雑木林などの自然環境の保全と活用 (3)多様な野生生物の生息・生育空間となる緑地、水辺環境などの保全・再生	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路の渋滞、それにともなう生活道路への車の侵入があり、幹線道路の整備を進めるべきである。 ・特定の道路が混むことが課題となっている。 ・田んぼと等があると子供たちは遊びにやってくる。そのような環境を取り戻すことに力を入れてほしい。 ・見沼田んぼは緑区にとって大きな特徴であるので、アピールすべきポイントでは。 ・緑を守るには開発を制限する必要がある。 ・桜並木を区のシンボルにできればと考えている。 ・桜並等の名所に休憩所が無いので設置すれば賑わいが出てくるのでは。 ・緑と健康の一体イベントの開催。 	3 安全で安心して暮らせるまちづくり (1)交通安全対策の推進と安全な道路環境の整備 (2)防犯意識の高揚と対策の推進 (3)防災情報の提供と地域防災力の向上
	4 生活環境の整ったまちづくり (1)人と環境に優しい公共交通のさらなる充実 (2)土地区画整理事業などによる計画的な市街地形成の推進 (3)ボランティア活動の活性化による、ごみの減量化やリサイクル活動の支援		4 自然と共生し、生活環境の整ったまちづくり (1)緑や水辺などの自然環境の保全、自然と調和した生活環境の整備 (2)交通渋滞の解消に向けた幹線道路の整備 (3)土地区画整理事業などによる計画的な市街地形成の推進
	5 にぎわいのあるまちづくり (1)駅周辺地域の生活利便性の向上とにぎわいの創出 (2)産直販売や観光農園など、地産地消の取組による農業の活性化 (3)駅や区役所周辺などにおける地域活動の環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・区には他に負けない観光資源があるのに認知されていない。 ・区の魅力をもっと発信していきたい。 ・見沼田んぼを活用していきたい。 ・駅前ばかりに商業施設があるのに駐輪、駐車スペースが少ない。 ・大規模なイベントの開催。 	5 にぎわいのあるまちづくり (1)地域資源や観光資源の活用と情報発信によるにぎわいの創出 (2)産直販売や観光農園など、地産地消の取組による農業の活性化

「岩槻区の将来像」(素案)(第3部会(第1回)の意見反映)

	後期基本計画	主な市民意見 (次期計画に反映した主な意見は青字)	次期総合振興計画 (現行計画からの変更箇所は赤字/審議会意見反映箇所は緑字)
将来像	<p>自然と歴史、文化を守り育て、楽しむまち 岩槻区には豊かな緑と水辺、長い歴史を持つ神社仏閣、城下町や人形のまちとしての地域文化など、多彩な魅力があります。安心して心豊かな生活を送ることのできるまちの実現を基本に、これらの魅力を守り、生かしながら、農業や商工業、観光など産業面で新しい展開も促し、住んでいる人、訪れる人が岩槻のよさを共感できるまちづくりを進めます。</p>	<p>まちづくりで何を指すかということが明確にすべきである。</p>	<p>自然と歴史、文化を守り育て、楽しむまち 岩槻区には豊かな緑と水辺、長い歴史を持つ神社仏閣、城下町や人形のまちとしての地域文化など、多彩な魅力があります。安心して心豊かな生活を送ることのできるまちの実現を基本に、これらの魅力を守り、生かしながら、農業や商工業、観光など産業面で新しい展開も促し、住んでいる人、訪れる人が岩槻のよさを共感できるまちづくりを進めます。</p>
まちづくりのポイント	<p>1 多世代の参加と交流による、区民主役のまちづくり (1) 住民同士のふれあいなどによる活力豊かな地域コミュニティの醸成 (2) 区民と行政が連携した地域コミュニティの活性化に必要な仕組みづくり (3) 住民があらゆる分野で交流し、多様な文化を認め合い、暮らしを支え合う身近な国際交流の推進 (4) 区民と行政とのパートナーシップの確立、区民の主体的なまちづくり活動に対する支援などによる、区民と行政が共に考え、はぐくむまちづくりの推進 (5) 人形づくりや田植えなどの様々な体験を通じた、子どもの地域に対する愛着心や誇り、喜びをはぐくむ地域交流や教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 若者の定住に向け取組む必要がある。また県営住宅に入居する若い世代との交流が課題になっている。 区の中で活動している団体間をつなぐ役割を果たす組織が無く、行政と取組みを行いたい。 区主催の同窓会。 	<p>1 多世代の参加と交流による、区民主役のまちづくり (1) 住民同士のふれあいなどによる活力豊かな地域コミュニティの醸成 (2) 区民と行政が連携した地域コミュニティの活性化に必要な仕組みづくり (3) 住民があらゆる分野で交流し、多様な文化を認め合い、暮らしを支え合う身近な地域社会の形成 (4) 区民と行政とのパートナーシップの確立、区民の主体的なまちづくり活動に対する支援などによる、区民と行政が共に考え、はぐくむまちづくりの推進 (5) 人形づくりや田植えなどの様々な体験を通じた、子どもの地域に対する愛着心や誇り、喜びをはぐくむ地域交流や教育の推進</p>
	<p>2 地域資源を生かした、魅力とにぎわいを創出するまちづくり (1) 元荒川や赤坂沼、屋敷林・雑木林や斜面林など豊かな自然環境を守り、育てる活動の充実と、水辺と緑のネットワーク化の推進 (2) 子どもの頃から優れた文化芸術に触れる機会の充実、区民の多彩な文化芸術活動の促進など、豊かな文化環境づくりの推進による、個性ある地域文化の育成 (3) 人形をはじめとする歴史や文化に根ざした「岩槻らしさ」を磨き、発信し、都市型観光の形成に向けた受入環境の整備 (4) 環境に優しく、安全な食料を提供する農業の振興や観光農園、クワイ・コマツナ等農産物のブランド化の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 緑が多い 岩槻に程よい大きさのホールがなく、他市に行っている状況である。300~400人のホールがあれば。 ひな祭り期間は賑わうが、その他の時期は賑わっておらず、対策をお願いしたい。 駅の中の観光案内所をもっと活用したい。また駅の東西で活気が異なるように感じる。 岩槻といえば歴史・文化・城下町であるが、さいたま市の中で岩槻の歴史と文化が認知されていない。 埋もれている地域資源の発掘、を入れたい。また情報発信の文言を加えたい。 岩槻駅案内所の活用について、地域製品のPRができるようしたい。 他から人を呼び込むようにするには、駐車場の整備や岩槻城、道の駅等の箱物整備が必要ではないか。 区をあげて旅行会社等に区を売り込む必要がある。 歴史(岩槻城址)・伝統(人形)がある。・歴史や伝統のPRができていない。 岩槻の歴史を学ぶ勉強会。・人形をもっと売り出す。・城の再建。 農業では、高齢化の中でも若手が頑張っている。(ヨーロッパ野菜など) 交通の利点を生かす点からも道の駅など農産物を扱う施設があると良い。 小松菜について生産が盛んだが、地域間競争の中にある。 豊富な地元グルメ。・小さな道の駅(空き地の活用)。 	<p>2 地域資源を生かした、魅力の向上とにぎわいを創出するまちづくり (1) 岩槻駅周辺の商業・文化機能の充実と歴史ある街並みを生かし、にぎわいを創出するまちづくりの推進 (2) 元荒川や屋敷林・雑木林や斜面林など豊かな自然環境を守り、育てる活動の充実と、水辺と緑のネットワーク化の推進 (3) 子どもの頃から優れた文化芸術に触れる機会の充実、区民の多彩な文化芸術活動の支援など、豊かな文化環境づくりの推進による、個性ある地域文化の育成 (4) 城下町としての歴史資源や、人形のまちという文化資源を生かした「岩槻らしさ」を磨き、市内外へ積極的に情報発信し、多彩なネットワークを持つ都市型観光の形成に向けた受入環境の整備 (5) 環境に優しく、安全な食料を提供する農業の振興や、クワイ・コマツナ・ヨーロッパ野菜等農産物のブランド化の推進</p>
	<p>3 生活環境の整った、安全・安心で暮らしやすいまちづくり (1) 次代を担う自立した青少年の健全な育成の推進 (2) スポーツなど健康づくりのための機会や場所の充実 (3) 緑や水辺、歴史、文化が溶け合う美しい景観に恵まれた、ゆとりのある居住空間の維持、創出 (4) 歩行者及び自転車利用者が安心して通行できる安全なまちづくり (5) 交通利便性の向上とにぎわいを創出する地下鉄7号線の延伸促進 (6) 自助・共助・公助の連携による、地域防災力・防犯力の向上と高齢者や障害者、子育て世帯などが安心して暮らせる地域福祉社会の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地区は高齢化しており交通の便が向上するとよい。 高齢者が区内を移動する手段が十分でない。 ランニング、ウォーキングコースの充実。・緑が多い。・古い建造物が残っている。 交通ルールとマナーが守られる区になるよう取り組みを続けていきたい。 区内の地域間格差解消が課題である。将来に向けては地下鉄が延伸されるか次第であると考えている。 また座って談笑できるベンチ、場所を役所の中も含めてお願いしたい。また区内の交通網が不十分。 地下鉄が通ると街が変わると期待している。 駅の近くの大型店舗が閉鎖し、買い物に行く場所がなくなっている。 都内等へのアクセスの点から人口減少は予想され、地下鉄の開通を期待している。 子供たちが成長したときに岩槻から出ていけない取組を行っていく必要がある。交通手段も一つだ。 今後は観光地化に向け地下鉄と岩槻城があると良く、設置に向けた取り組みが普及すると良い。 地下鉄を通すということについて、農家にとっては用地の買収など割を食う話ではないか懸念 地下鉄7号線は重要な事業で、人を呼び込む事業を積極的に推進していく必要がある。 インターチェンジがある。・商店街に活気がない。・駅のまわりをもっと発展させるべき。 コミュニティバスの充実高齢化・子どもが少ない。 子育て支援政策。・ハザードマップの回覧板での交付。・定住の奨励。 	<p>3 生活環境の整った、安全・安心で暮らしやすいまちづくり (1) 次代を担う自立した青少年の健全な育成の推進 (2) スポーツなど健康づくりのための機会や場所の充実 (3) 緑や水辺、歴史、文化が溶け合う美しい景観に恵まれた、ゆとりのある居住空間の維持、創出 (4) 歩行者及び自転車利用者が安心して通行できるための交通安全意識の高揚と安全な道路整備の推進 (5) 高齢者をはじめ誰もが安心して利用しやすい身近な交通環境の充実 (6) 交通利便性の向上と若い世代の定住化促進や商店街の活性化を図るなど、更なるにぎわいの創出につながる地下鉄7号線の延伸促進 (7) 自助・共助・公助の連携による、地域防災力・防犯力の向上 (8) 高齢者や障害者、子育て世帯などが安心して暮らせる地域福祉社会の形成</p>

「西区の特性」(素案)(第3部会(第1回)の意見反映)

後期基本計画	次期総合振興計画 (現行計画からの変更箇所は赤字/審議会意見反映箇所は緑字)
<p><特 性></p> <p>西区は広大な緑の空間を抱える荒川、桜並木の美しい鴨川やびん沼川が巡り、大宮花の丘農林公苑や錦乃原桜草園などがあって、自然環境に恵まれた季節の花々も豊かな「水と緑と花のまち」です。また、祭りなど伝統芸能が今も親しまれ、地域文化が息づいたまちでもあります。</p> <p>(都市基盤・環境)</p> <p>区域の東部には国道 17 号新大宮バイパスが南北方向に、北部には国道 16 号西大宮バイパスが東西方向に伸びており、西区と大宮駅周辺地区を結ぶさいたま春日部線やさいたまふじみ野所沢線とともに道路体系の骨格を形成しています。また、JR 川越線によって大宮駅周辺地区を経て東京と結ばれています。</p> <p>区の中央部は、JR 川越線を挟んで住宅を中心とする市街地が広がっており、その周辺は雑木林や農地が残る緑の多い地域となっています。特に、区の西を流れる荒川沿岸は近郊緑地保全区域*に指定されており、まとまった緑地や優良農地が広がると同時に、スポーツ・レクリエーション施設もある憩いの場となっています。今後はこれらの豊かな緑の保全とさらなる活用が求められます。</p> <p>JR 川越線の指扇駅や西大宮駅周辺地区は、身近な商業機能の集積する区民生活の拠点となっていますが、区域が広いこともあって、駅周辺と各地区を結ぶ交通利便性の向上が強く求められています。コミュニティバス*が運行されるようになって一定の改善が図られましたが、一層の充実が必要です。また、団地が開発された地区や土地区画整理事業*が進行中の地区では生活基盤が比較的整備されていますが、区南部を中心に駅や主要施設を結ぶ交通や生活道路*、公共下水道の整備が遅れている地区もあり、充実が求められています。水稻栽培や果樹栽培などの農業も盛んな西区ですが、スプロール化*が進んでいる箇所も見られ、農地と住宅地との調和も課題となっています。</p> <p>現在、西大宮駅の北側、区役所を含む一帯と南側で土地区画整理事業が進められており、区民の交流や日常生活における新たな拠点として、役割を発揮していくことが期待されています。</p>	<p><特 性></p> <p>西区は広大な緑の空間を抱える荒川、桜並木の美しい鴨川やびん沼川が巡り、大宮花の丘農林公苑や錦乃原桜草園などがあって、自然環境に恵まれた季節の花々も豊かな「水と緑と花のまち」です。また、<u>地域の</u>祭りなど伝統芸能が今も親しまれ、地域文化が息づいたまちでもあります。</p> <p>(都市基盤・環境)</p> <p>区の東部には国道 17 号新大宮バイパスと<u>上尾道路</u>が南北方向に、北部には国道 16 号西大宮バイパスが東西方向に伸びており、西区と大宮駅周辺地区を結ぶさいたま春日部線やさいたまふじみ野所沢線とともに道路体系の骨格を形成しています。<u>また、平成 28 年 4 月には新大宮上尾道路が事業化され、東京都心へのアクセス向上が期待されています。一方、東京から大宮駅周辺地区を経て結ばれている JR 川越線については、人口増加に伴い、日進駅以西の複線化が課題となっています。</u></p> <p>区の中央部は、JR 川越線を挟んで住宅を中心とする市街地が広がっており、その周辺は雑木林や農地が残る緑の多い地域となっています。特に、区の西を流れる荒川沿岸は近郊緑地保全区域*に指定されており、まとまった緑地や優良農地が広がると同時に、スポーツ・レクリエーション施設もある憩いの場となっています。今後はこれらの豊かな緑の保全とさらなる活用が求められます。</p> <p>JR 川越線の指扇駅や西大宮駅周辺地区は、身近な商業機能の集積する区民生活の拠点となっていますが、<u>指扇駅の橋上化・北口駅前広場の整備や、西大宮駅北側の土地区画整理事業の完了により利便性の向上が図られ、更なる賑わいが期待されます。一方、区域が広いことから、駅周辺と各地区を結ぶ交通利便性の向上が強く求められています。コミュニティバス*や乗合タクシーの運行により一定の改善が図られましたが、一層の充実が必要です。また、生活道路*、公共下水道の整備については、引き続き進める必要があります。</u>農業も盛んな西区ですが、スプロール化*が進んでいる箇所も見られ、農地と住宅地との調和も課題となっています。</p> <p>現在、西大宮駅南側で土地区画整理事業が進められ、<u>良好な住環境の形成や生活基盤の整備により、西大宮駅北側一帯とともに、</u>区民の交流や日常生活における新たな拠点として、役割を発揮していくことが期待されています。</p>

後期基本計画	次期総合振興計画（現行計画からの変更箇所は赤字／審議会意見反映箇所は緑字）
<p>（地域資源）</p> <p>区内には荒川や鴨川などの大きな河川のほか、桜並木が整備されたびん沼川などの水辺や雑木林がありますが、これに加え、東部の三橋総合公園や鴨川みずべの里、西部の荒川沿いの西遊馬公園、南部の錦乃原桜草園、北部の秋葉の森総合公園や大宮花の丘農林公苑など、特色ある公園が多いことも区の魅力となっています。また、秋葉ささら獅子舞や指扇の餅搗き踊りなど市指定無形民俗文化財*である民俗芸能が今も親しまれ、神社仏閣など地域固有の歴史・文化資源が保存・継承されています。</p> <p>しかし、西区の歴史を伝えるこれらの資源も、一部には十分活用されていないものもあり、区の魅力向上に向けて、まちづくりに生かしていく視点が求められます。</p> <p>（コミュニティ）</p> <p>地域コミュニティ*の温かさ、活発さは西区の特徴の一つとなっています。今後は、コミュニティの力を自立的なまちづくりに生かしながら、地域文化の伝承と創造、豊かな自然環境の保全、子育てや高齢者の支援などに取り組むために、具体的な施策をどのように進めていくのかが重要な課題です。</p>	<p>（地域資源）</p> <p>区内には荒川や鴨川などの大きな河川のほか、桜並木が整備されたびん沼川などの水辺や雑木林がありますが、これに加え、東部の三橋総合公園や鴨川みずべの里、西部の荒川沿いの西遊馬公園、南部の錦乃原桜草園、北部の秋葉の森総合公園や大宮花の丘農林公苑など、特色ある公園が多いことも区の魅力となっています。また、市指定無形民俗文化財*である秋葉ささら獅子舞や指扇の餅搗き踊り、お囃子など民俗芸能が今も親しまれ、神社仏閣など地域固有の歴史・文化資源が保存・継承されています。</p> <p>大宮アルディージャ練習場や荒川サイクリングロード、広大な荒川河川敷にある運動場などの地域資源や、さらに、首都圏では2例目、さいたま市では初の公認グラウンド・ゴルフ専用コースとなる宝来グラウンド・ゴルフ場が整備され、新たなスポーツ環境が魅力となっています。</p> <p>西区のこれらの資源を十分活用し、区の魅力向上に向けて、まちづくりに生かしていく視点が求められます。</p> <p>（コミュニティ）</p> <p>地域コミュニティ*の温かさ、活発さは西区の特徴の一つとなっています。今後は、コミュニティの力を自立的なまちづくりに生かしながら、地域文化の伝承と創造、豊かな自然環境の保全、子育てや高齢者の支援などに取り組むために、具体的な施策を進めていくことが重要です。</p>

「北区の特性」（素案）（第3部会（第1回）の意見反映）

後期基本計画	次期総合振興計画（現行計画からの変更箇所は赤字／審議会意見反映箇所は緑字）
<p><特 性></p> <p>市の北に位置する北区は、世界に誇る日本の文化である盆栽を継承する「大宮盆栽村」や盆栽文化振興の拠点施設である「大宮盆栽美術館」、日本近代漫画の先駆者北沢楽天ゆかりの「漫画会館」や「日進餅つき踊り」などの伝統的な文化財産を有し、個性豊かな地域資源に恵まれた区です。また、区のほぼ中央にある日進・宮原地区は、本市の副都心に位置付けられており、「プラザノース」をはじめ、その周辺などでは、新たな魅力となる公共・公益・商業・業務機能及び都市型住宅*の複合市街地が整備されています。</p> <p>（都市基盤・環境）</p> <p>北区には大宮駅から放射状に延びる鉄道・軌道系5路線が走るとともに、国道17号、国道16号東大宮バイパス、産業道路の広域幹線道路*などが通過し、交通利便性の高い地区となっています。また、土地区画整理事業*などにより都市基盤施設の整えられた市街地がほぼ全域にわたり、北部には大規模な工業団地が、駅周辺や幹線道路周辺には工業・商業・業務地が広がる一方、区の東部を流れる芝川、見沼代用水西縁に沿って緑の空間である見沼田圃が広がっています。</p> <p>また、宮原地区では区役所、図書館、ホール等の機能を複合化し、さらに芸術創造・ユーマ機能有する施設であるプラザノースを中心として、周辺には商業、都市型住宅等が整備され、日進駅周辺地区では、住宅・商業施設等が建設されるとともに、日進駅の橋上化により北口が開設し、駅前広場が整備されています。</p> <p>このように都市基盤*整備は大きく進展する一方で、今後の急激な人口の高齢化に備え、歩行者や自転車利用者が安全に通行できる道路の整備や駅のバリアフリー*化など交通環境の向上、災害への対策、中高層住宅と周辺環境との調和なども求められています。</p> <p>（産業）</p> <p>北部の吉野町には「大宮総合食品卸売市場」や工業団地があり、本市の流通・生産拠点としての顔を備えているほか、区の中央部から南部にかけてもJR高崎線・川越線の沿線を中心に工場の立地が多く見られます。また、日進・宮原地区での副都心整備により商業・業務機能が向上し、産業面での役割も一層高まるものと期待されます。</p>	<p><特 性></p> <p><u>本市の北部</u>に位置する北区は、世界に誇る日本の文化である盆栽を継承する「大宮盆栽村」や盆栽文化振興の拠点施設である「大宮盆栽美術館」、日本近代漫画の先駆者北沢楽天ゆかりの「漫画会館」、<u>市指定無形民俗文化財である</u>「日進餅つき踊り」などの伝統的な文化財産を有し、個性豊かな地域資源に恵まれた区です。また、区のほぼ中央にある日進・宮原地区は、「プラザノース」をはじめ、公共・公益・商業・業務機能及び都市型住宅*<u>から成る複合市街地として、本市の副都心にふさわしい、にぎわいの創造と生活交流の拠点が整備されています。</u></p> <p>（都市基盤・環境）</p> <p>北区には、大宮駅から放射状に延びる<u>JR 高崎線・宇都宮線・川越線、東武野田線（東武アーバンパークライン）、埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）などの鉄道・軌道系路線が充実し、また</u>国道17号、国道16号東大宮バイパス、産業道路<u>などの広域幹線道路*が整備された</u>交通利便性の高い地区となっています。また、土地区画整理事業*などにより都市基盤施設の整えられた市街地がほぼ全域にわたり、北部には大規模な工業団地が、駅周辺や幹線道路周辺には工業・商業・業務地が広がる一方、東部を流れる芝川、見沼代用水西縁に沿って緑の空間である見沼田圃が広がっています。</p> <p>宮原地区では区役所、図書館、ホール等の機能を複合化し、さらに芸術創造・ユーマ機能を有する施設である<u>「プラザノース」</u>を中心として、周辺には商業、都市型住宅等が整備され、日進駅周辺地区では、住宅・商業施設等が建設されるとともに、日進駅の橋上化により北口<u>と南口</u>の駅前広場が整備されています。</p> <p>都市基盤*整備が大きく進展する<u>中</u>、歩行者や自転車利用者が安全に通行できる道路の整備や駅のバリアフリー*化<u>と</u>いった交通環境の向上、災害への対策、中高層住宅と周辺環境との調和なども求められています。</p> <p>（産業）</p> <p><u>区</u>の北部には「大宮総合食品卸売市場」や<u>「吉野原工業団地」</u>があり、本市の流通・生産拠点としての顔を備えているほか、中央部から南部にかけてもJR高崎線・川越線の沿線を中心に<u>企業が多数立地しています。</u>また、日進・宮原地区での副都心整備により商業・業務機能が向上し、産業面での役割も一層高まるものと期待され<u>て</u>います。</p>

後期基本計画	次期総合振興計画（現行計画からの変更箇所は赤字／審議会意見反映箇所は緑字）
<p>（地域資源）</p> <p>区の南部にある盆栽町にはその名のとおり、盆栽園が集まった一画があり、「大宮盆栽村」として親しまれ、盆栽の素晴らしさ、面白さに気軽に触れていただくための拠点施設である「大宮盆栽美術館」を中心に、国内外から多数の見学者が訪れています。近くには、日本の近代漫画を確立した北沢楽天の作品を展示する「漫画会館」や「市民の森」などもあり、個性的な地域資源に親しめる緑豊かな一帯となっています。また、氷川参道から大宮公園、「大宮盆栽村」、「市民の森」へと続く緑の回廊は、全国にも類例のない貴重な緑地エリアとなっています。さらに、西部に位置する鴨川沿いには斜面林に湧く清水があり、「三貫清水」として住民による自主的な清掃活動などにより守られています。</p> <p>（コミュニティ）</p> <p>北区は早い時期から副都心として都市基盤施設の整備が進められてきた地区であり、新たな住民も増加していることから、地域住民の交流を活性化していくことが重要です。また、安全・安心の確保や健康・福祉に対する関心も高く、住民、地域団体、事業者、行政など各主体の連携による防災・防犯への取組や、子育て環境の充実及び健康づくりの促進が期待されます。</p>	<p>（地域資源）</p> <p>区の南部には、<u>日本屈指の盆栽郷として世界的に知られている「大宮盆栽村」があり</u>、盆栽の素晴らしさ、面白さに気軽に触れていただくための拠点施設である「大宮盆栽美術館」を中心に、国内外から多数の見学者が訪れています。隣接地には、日本の近代漫画を確立した北沢楽天の作品を展示する「漫画会館」や「市民の森」などもあり、<u>伝統的な文化や緑豊かな自然など、多くの地域資源があります。</u>また、氷川参道から「<u>大宮公園</u>」、「大宮盆栽村」、「市民の森」へと続く緑の回廊は、全国にも類例のない貴重な緑地エリアとなっています。さらに、西部には、<u>鴨川の斜面林に湧く清水</u>があり、「三貫清水」として住民による自主的な清掃活動などにより守られています。</p> <p>（コミュニティ）</p> <p>北区は都市基盤施設の整備が進められてきた地区であり、<u>交通利便性が高く</u>新たな住民も増加していることから、地域住民の交流を活性化していくことが重要です。また、安全・安心の確保や健康・福祉に対する関心も高く、住民、地域団体、事業者、行政など各主体の連携による防災・防犯への取組や、子育て環境の充実及び健康づくりの促進が<u>求められています。</u></p>

「大宮区の特性」（素案）（第3部会（第1回）の意見反映）

後期基本計画	次期総合振興計画（現行計画からの変更箇所は赤字／審議会意見反映箇所は緑字）
<p><特 性></p> <p>大宮区は、本市中央部の北寄りに位置し、古くは武蔵一宮・氷川神社の門前町、中山道の宿場町として栄えました。区のおぼ中央には、全国有数のターミナル駅である大宮駅と県内で最大級の商業・業務地区があり、本市の交通・経済の中心地となっています。</p> <p>（都市基盤・環境）</p> <p>本市の都心の一つである区の中央部には新幹線5路線を含むJR線、東武野田線、埼玉新都市交通ニューシャトルがほぼ南北に伸び、道路は国道17号、旧中山道、産業道路が南北方向の軸、さいたま春日部線などが東西方向の軸となっています。鉄道・幹線道路の充実した区の中央部には商業・業務地区が集積し、高度な都市機能*を有するまちとして発展しており、拠点を構える企業が増えています。</p> <p>これらにぎわいのある地区の外側には静かな住宅街が広がっており、区内には、コミュニティ関連施設をはじめ、各種の文化・スポーツ施設などの公共施設の整備も進んでいます。</p> <p>このように、基本的な生活環境や基幹的な道路・交通はほぼ整備されていますが、大宮駅及び周辺市中心街地と郊外とを結ぶ東西方向の道路・交通については、さらに充実を図る必要があります。</p> <p>大宮駅周辺地区は県内でも有数の商業・業務地区であり、近年は駅周辺に教育施設などが増えており、若い人々が集まり、活気が加わっています。今後も、開発の進むさいたま新都心駅東口とともに、まちづくり（再開発事業など）の進捗に伴って新しい時代にふさわしい快適な街並みとして整備されることにより、商業・業務機能の一層の集積による広域的な発展の核となることが期待されています。同時に、区民生活に必要な身近な商業・サービス業が集積した地区として、子どもから高齢者まで誰もが暮らしやすく活動しやすい拠点としての整備も求められています。</p> <p>（産業）</p> <p>鉄道のまち、商業・業務・工業のまちとして発展してきた歴史があり、区の中央部に商業、サービス業などの産業が集中しています。特に、商業は市全体の経済活動の面でも重要な役割を担っていますが、古くからの商業地の中には活性化が必要とされているところもあり、事業者と行政が連携して魅力ある商店街づくりを進めることが求められています。また、全国有数のターミナル駅としての拠点性を生かした新たな核となる産業の創出が求められています。</p>	<p><特 性></p> <p>大宮区は、本市中央部の北寄りに位置し、古くは<u>武蔵一宮</u>氷川神社の門前町、中山道の宿場町として栄えました。区のおぼ中央には、全国有数のターミナル駅である大宮駅<u>及び</u>県内最大級の商業・業務地区があり、<u>東日本の玄関口としての交通の結節点</u>・経済の中心地となっています。</p> <p>（都市基盤・環境）</p> <p><u>大宮区は、北陸・北海道新幹線など6路線</u>を含むJR線、東武野田線（<u>東武アーバンパークライン</u>）、埼玉新都市交通<u>伊奈線</u>（ニューシャトル）がほぼ南北に伸び、道路は国道17号、旧中山道、産業道路が南北方向の軸、さいたま春日部線などが東西方向の軸となっています。鉄道・幹線道路の充実した<u>大宮区</u>は商業・業務地区が集積し、高度な都市機能*を有するまちとして発展しており、<u>活動拠点を構える企業が増えています。</u></p> <p><u>また、東日本の玄関口として、北陸・北海道新幹線の開業や上野東京ラインの開通等から、交通の結節点としての大宮駅の重要性がこれまで以上に高まっています。</u></p> <p>これら<u>賑わい</u>のある地区の外側には静かな住宅街が広がっており、区内には、コミュニティ関連施設をはじめ、各種の文化・スポーツ施設などの公共施設<u>も整備されています。</u></p> <p>このように、基本的な生活環境や基幹的な道路・交通は整備されていますが、大宮駅及び周辺市中心街地と郊外とを結ぶ東西方向の道路・交通については、さらに充実を図る必要があります。</p> <p>大宮駅周辺地区は県内<u>最大級</u>の商業・業務地区であり、近年は駅周辺に<u>予備校や専門学校</u>などが増えており、若い人々が集まり、活気<u>と賑わいを醸し出しています。</u>今後も、<u>大宮駅グランドセントラルステーション化構想に基づく駅周辺街区のまちづくり、交通基盤整備及び駅機能の高度化等を進め、開発の進むさいたま新都心東口とともに、</u>新しい時代にふさわしい快適な街並みとして整備されることにより、商業・業務機能の一層の集積による広域的な発展が期待されています。同時に、区民生活に必要な身近な商業・サービス<u>機能</u>が集積した地区として、子どもから高齢者まで誰もが<u>住みやすく、住み続けたいまち</u>としての整備も求められています。</p> <p>（産業）</p> <p><u>大宮区は、</u>鉄道のまち、工業・商業・業務のまちとして発展してきた歴史があり、区の中央部に商業、サービス業などの産業が<u>集積</u>しています。特に、商業は市全体の経済活動の面で重要な役割を担っていますが、古くからの商業地の中には活性化が必要とされているところもあり、事業者と行政が連携して魅力ある<u>まち</u>づくりを進めることが求められています。また、全国有数のターミナル駅としての拠点性を生かした新たな核となる産業の創出<u>や東日本の交流拠点都市実現のための整備</u>が求められています。</p>

後期基本計画	次期総合振興計画（現行計画からの変更箇所は赤字／審議会意見反映箇所は緑字）
<p>（地域資源） さいたま新都心から続く氷川参道や大宮公園が区の中央部に緑豊かな一画を形成するとともに、見沼代用水西縁に広がる見沼田圃などの緑濃い空間があります。また、氷川神社、鉄道博物館、大宮ソニックシティ、JACK 大宮（大宮情報文化センター・宇宙劇場）等の歴史・文化施設、野球場やサッカー場のスポーツ施設など人の集まる場が数多く整備されており、これらの資源を活用して人と人との交流を深め、地域に根づいた文化を区民と連携しながら積極的に創造・発信していくことが大切です。</p> <p>（コミュニティ） 大宮区は歴史のあるまちで、古くからの住民が多く住む一方、マンションの多い中心市街地や郊外には新たに転入してきた区民も増えており、地域住民相互の交流の促進が求められています。その促進のためには、自治会・まちづくり団体・ボランティアグループなどの各種市民活動団体や地域への社会貢献活動を積極的に行う事業者と行政が連携を図りながら地域における目的の実現や課題の解決に向けて協力することが重要です。</p>	<p>（地域資源） <u>大宮区は、さいたま新都心から続く 2kmにわたる氷川参道や県内初の県営公園である大宮公園が</u>区の中央部に緑豊かな一画を形成するとともに、見沼代用水西縁に広がる見沼田圃などの<u>原風景が</u> <u>つながる</u>空間があります。また、<u>およそ二千四百年以上の歴史のある武蔵一宮氷川神社、鉄道博物館、大宮ソニックシティ、JACK 大宮（大宮情報文化センター・宇宙劇場）等の歴史・文化施設、野球場や大宮アルディージャのホームスタジアムであるサッカー場（NACK5スタジアム大宮）</u>のスポーツ施設などが数多く整備されており、<u>これらの地域資源を活用して人と人との交流を深めるとともに、地域に根づいた文化の価値を高め、積極的に発信していくことが大切です。</u></p> <p>（コミュニティ） 大宮区は、古くからの住民が多く住む一方、マンションの多い中心市街地や郊外には新たに転入してきた区民も増えており、地域住民相互の交流の促進が求められています。その促進のためには、自治会・まちづくり団体・ボランティアグループなどの各種市民活動団体や、<u>地域への社会貢献活動を積極的に行う事業者と行政が連携を図りながら、地域における目的の実現や課題の解決に向けて協力</u>することが重要です。</p>

「見沼区の特性」（素案）（第3部会（第1回）の意見反映）

後期基本計画	次期総合振興計画（現行計画からの変更箇所は赤字／審議会意見反映箇所は緑字）
<p><特 性></p> <p>市の北東部に位置する見沼区は10区の中で2番目の区域面積を持ち、人口規模も南区について2番目に大きい区です。区域の西から南、東を縁取るように見沼田圃が広がっており、豊かな水と緑に恵まれている一方、北部には高層住宅群をはじめ計画的に形成された市街地が広がり、都市的な生活環境と自然の魅力が共存しています。</p> <p>（都市基盤・環境）</p> <p>区のほぼ中央を東武野田線が東西に、北西部にはJR宇都宮線が南北に延びており、いずれも大宮駅と結んでいます。また、幹線道路としては、第二産業道路が区の西部を南北に、さいたま春日部線が区の中央部を東西に延びているほか、東北自動車道岩槻インターチェンジにも近接していますが、広い区域面積に比べて道路や公共交通機関の整備は十分とはいえません。</p> <p>住宅地としては、北部では土地区画整理事業*によって良好な住環境が形成され、見沼代用水東縁と綾瀬川の流れる南東部には見沼田圃が広がり、農地・緑地が豊かに残されています。</p> <p>区内には、道路や下水道などの都市基盤*の整備の遅れ、ミニ開発によるスプロール化*や宅地の細分化などもあり、計画的に都市基盤・生活基盤の整備充実を図る必要があります。また、大和田駅から区役所周辺を身近な拠点として機能を高めていくとともに、鉄道駅や区内の主要箇所を結ぶ道路・交通の整備を進め、豊かな自然と共生できる暮らしやすいまちづくりが求められています。</p> <p>（地域資源）</p> <p>見沼区は東部を見沼代用水東縁、綾瀬川が流れ、南西部では芝川に近接しており、河川に沿って水田のほか、花き・花木や野菜栽培の畑などが広がり、背後の斜面林と一体となって「見沼田圃」の景観をつくっています。また、見沼代用水東縁沿いに緑のヘルシーロードが整備されており、見沼田圃の動植物や景観を楽しむことができます。この他、大宮南部浄化センターの自然庭園・みぬま見聞館、旧坂東家住宅見沼くらしっく館など、緑の文化ともいべき地域資源が多くあります。</p> <p>しかし、近年は休耕地も増えており、自然景観や生態系の維持のためにも農家、地域住民、行政が連携した積極的な取組による見沼田圃の保全策が重要な課題となっています。</p> <p>また、区役所に隣接する大宮武道館や堀崎公園等のスポーツ施設や、3つのコミュニティセンターなど、区民の様々な活動の拠点が整備されています。</p>	<p><特 性></p> <p>市の北東部に位置する見沼区は10区の中で2番目の区域面積を持ち、区域の西から南、東を縁取るように<u>首都圏有数の緑地空間である</u>見沼田圃が広がっており、豊かな水と緑に恵まれています。一方、北部には高層住宅群をはじめ計画的に形成された市街地が広がる<u>など、都市機能と豊かな自然が調和した良好な生活環境を形成しています。</u></p> <p>（都市基盤・環境）</p> <p>区のほぼ中央を東武野田線（<u>東武アーバンパークライン</u>）が東西に、北西部にはJR宇都宮線が南北に延びており、いずれも大宮駅と結んでいます。また、幹線道路としては、第二産業道路が区の西部を南北に、さいたま春日部線が区の中央部を東西に延びているほか、東北自動車道岩槻インターチェンジにも近接していますが、広い区域面積に比べて道路や公共交通機関の整備は<u>未だ</u>十分とはいえません。</p> <p>住宅地としては、北部では土地区画整理事業*によって良好な住環境が形成され、<u>国道16号東大宮バイパス北側地区では、中高層の住宅街が整備されています。一方、東部には、見沼代用水東縁、綾瀬川が流れ、南西部は芝川に近接しており、河川に沿って水田のほか、畑が広がり、背後の斜面林と一体となって「見沼田圃」の景観が形成されています。</u></p> <p>区内には、ミニ開発によるスプロール化*や宅地の細分化なども<u>見受けられ</u>、計画的に都市基盤・生活基盤の整備充実を図る必要があります。また、鉄道駅や区内の主要箇所を結ぶ道路・交通の整備を<u>はじめ、徒歩や自転車による移動環境の向上を図るなど、豊かな自然と共生できる暮らしやすいまちづくりが求められています。</u></p> <p>（地域資源）</p> <p><u>区</u>の東部を見沼代用水東縁、綾瀬川が流れ、南西部では芝川に近接しており、河川に沿って水田のほか、<u>花卉（かき）</u>・花木や野菜栽培の畑などが広がり、背後の斜面林と一体となって見沼田圃の景観をつくっています。また、見沼代用水東縁沿いに緑のヘルシーロードや<u>「見沼田んぼの桜回廊」があり</u>、見沼田圃の動植物や景観を楽しむことができます。この他、<u>大宮南部浄化センターのみぬま見聞館・自然庭園</u>、旧坂東家住宅見沼くらしっく館など、緑の文化ともいべき地域資源が<u>数</u>多くあります。</p> <p><u>この</u>自然景観や生態系の維持のためにも農家、地域住民、行政が連携した取組による見沼田圃の保全策を<u>積極的に推進していく必要があります。</u></p> <p>また、大宮武道館、堀崎公園等のスポーツ施設や、3つのコミュニティセンターなどが<u>区民の様々な活動、交流の場として利用に供されています。</u></p>

後期基本計画	次期総合振興計画（現行計画からの変更箇所は赤字／審議会意見反映箇所は緑字）
<p>（コミュニティ）</p> <p>見沼区は東部を見沼代用水東縁、綾瀬川が流れ、南西部では芝川に近接しており、河川に沿って水田のほか見沼区では新しく住む人々が増えており、古くから住んでいる住民とこれらの新しい住民との交流が活発な地区も見受けられ、地区の一体感とコミュニティ意識が高い様子が見られます。また、見沼区には芝浦工業大学などのキャンパスや新興住宅地もあって若い人々が多く、また外国から移り住む人も多く見受けられることから、区内の施設や地域資源を活用して、老若男女様々な人々が交流を深め、見沼の文化をまもり育て、愛されるまちづくりに共に取り組んでいくことが大切です。</p>	<p>（コミュニティ）</p> <p><u>見沼区では、豊かな自然や文化などの地域資源を生かした様々な活動による地域交流が図られています。今後も多様な主体による協働・連携を推進し、地域コミュニティを充実させることで、ふれあいのある住みよいまちづくりを推進していくことが求められています。</u></p>

「中央区の特性」（素案）（第3部会（第1回）の意見反映）

後期基本計画	次期総合振興計画（現行計画からの変更箇所は赤字／審議会意見反映箇所は緑字）
<p><特 性></p> <p>中央区は、従来、狭い区域の中で一体的なまちづくりが行われてきたことから、都市基盤*の整備も進んでおり、地域のコミュニティのつながりも深いことが特徴といえます。また、古くから市場町として栄えた歴史から蔵造り住宅などの街並みや文化財が残るとともに、区の東北部に位置するさいたま新都心地区とその周辺では新しい中高層の建築物も増えており、文化的な風情と近代的な景観の都市的な魅力が共存しています。</p> <p>（都市基盤・環境）</p> <p>中央区は、区の中央部を縦断する JR 埼京線の 3 駅（北与野駅、与野本町駅、南与野駅）に加えて、区の東側を走る JR 京浜東北線の 2 駅（与野駅、さいたま新都心駅）にも接しています。また、幹線道路としては、南北方向に国道 17 号と国道 17 号新大宮バイパス、東西方向には国道 463 号が伸びており、国道 17 号新大宮バイパス上には首都高速埼玉大宮線もあることから、区内だけでなく広域的な移動においても利便性が高くなっています。</p> <p>公民館等の身近な公共施設や下水道なども区全体にわたっておおむね整備されています。今後は、都市化の進展による緑の減少への対応、古い街並みと新しい都市空間の調和、歩いて楽しいみちづくりなど、生活環境の質の向上が重要です。</p> <p>また、与野駅と与野本町駅とに挟まれた区域には、区役所を中心とする公共機関及び商業・サービス業が集積しており、旧与野市時代からまちの中心となっています。しかしながら、交通利便性の向上と市民の生活圏域の拡大に伴って、既存の商店街の活力が失われている面などもあり、今後は、さいたま新都心を中心とした地域全体の魅力向上と地域の均衡ある発展に向けたまちづくりの推進に努める必要があります。</p> <p>（地域資源）</p> <p>ほぼ全域が市街化区域*となっている中央区では、区の中央を流れる鴻沼川・高沼用水、与野中央公園などの緑が自然とふれあう貴重な資源となっています。今後、その保全や質の向上を図るとともに、より積極的に新しい緑を生み出し、広げていくことが重要です。</p> <p>また、区内にはさいたま新都心や彩の国さいたま芸術劇場など、広域的に集客できる機能があり、こうした都市機能*と有機的に連携したまちづくりを進めていくことも求められます。</p> <p>（コミュニティ）</p> <p>中央区では、地域のまとまりの良さもあって、従来から地域住民によるコミュニティ活動が活発に行われ、それらの活動の連携も進んでいます。しかし、これからのまちづくりには、新しく転入してくる住民や地域との関わりが薄い若い世代などの力も必要です。長い歴史を持つ既存の地域コミュニティ*の実績や人のつながりを生かしながら、より柔軟な新しいコミュニティの形成にも努め、人々の交流をまちづくりの基盤にしていくことが課題です。</p>	<p><特 性></p> <p>中央区は、従来、<u>区域</u>の中で一体的なまちづくりが行われてきたことから、都市基盤*の整備が比較的進んでおり、地域のコミュニティのつながりも深いことが特徴といえます。また、<u>与野本町通り</u>は古くから市場町として栄えた歴史から、蔵造り住宅などの街並みや文化財が残るとともに、<u>区の北東部</u>に位置するさいたま新都心地区とその周辺では新しい中高層の建築物も増えており、<u>文化的な風情、都市的な魅力</u>が共存しています。</p> <p>（都市基盤・環境）</p> <p>中央区は、区の中央部を縦断する JR 埼京線の 3 駅（北与野駅、与野本町駅、南与野駅）に加えて、区の東側を走る JR 京浜東北線の 2 駅（与野駅、さいたま新都心駅）にも接して<u>いて、鉄道の利便性が高い地域です。</u>また、幹線道路としては、<u>南北方向に国道 17 号と新大宮バイパス、さらに新大宮バイパス上には首都高速埼玉大宮線、東西方向には国道 463 号が伸びており、首都高速埼玉大宮線から首都高速埼玉新都心線がさいたま新都心に延びていることから、</u>区内だけでなく広域的な移動において利便性の<u>高い地域です。</u></p> <p>公民館<u>など</u>の身近な公共施設や下水道、<u>公園</u>なども区全体にわたって概ね整備されています。今後は、都市化の進展による緑の減少への対応、古い街並みと新しい都市空間の調和、歩いて楽しいみちづくりなど、生活環境の質の向上が重要です。</p> <p>また、与野駅と与野本町駅とに挟まれた区域には、区役所を中心とする公共機関及び商業・サービス業が集積しており、旧与野市時代からまちの中心となっています。しかしながら、交通利便性の向上と市民の生活圏域の拡大に伴って、既存の商店街の活力が失われている面などもあり、今後は、さいたま新都心を中心とした地域全体の魅力向上と地域の均衡ある発展に向けたまちづくりの推進に努める必要があります。</p> <p>（地域資源）</p> <p>ほぼ全域が市街化区域*となっている中央区では、区の中央を流れる鴻沼川・高沼用水、与野中央公園などが自然とふれあう貴重な資源となっています。今後、その保全や質の向上を図るとともに、より積極的に新しい緑を生み出し、広げていくことが重要です。</p> <p><u>与野本町駅から徒歩圏内の与野公園には、バラ園が設置されており、毎年 5 月に開催されている「ばらまつり」の時期を中心に多数の来場者を迎えます。バラ園は、市街地に隣接した公園内に設置されていることから区民に身近でなじみが深く、バラは「区の花」にも選ばれています。</u></p> <p>また、区内にはさいたま新都心や彩の国さいたま芸術劇場など、広域的に集客できる機能があり、こうした都市機能*と有機的に連携したまちづくりを進めていくことも求められ<u>ています。</u></p> <p>（コミュニティ）</p> <p>中央区では、地域のまとまりの良さもあって、従来から地域住民によるコミュニティ活動が活発に行われ、それらの活動の連携も進んでいます。しかし、これからのまちづくりには、新しく転入してくる住民や地域との関わりが薄い若い世代などの力も必要です。長い歴史を持つ既存の地域コミュニティ*の実績や人のつながりを生かしながら、より柔軟な新しいコミュニティの形成にも努め、人々の交流をまちづくりの基盤にしていくことが課題です。</p>

「桜区の特性」(素案)(第3部会(第1回)の意見反映)

後期基本計画	次期総合振興計画(現行計画からの変更箇所は赤字/審議会意見反映箇所は緑字)
<p><特 性></p> <p>桜区は西側を荒川が流れ、桜草公園や秋ヶ瀬公園、荒川総合運動公園などが自然豊かなグリーンベルトを形成するなど、都市化の進んだ本市の中では田園的な面影を残した地域です。東部や南部には住宅を中心とする市街地が形成されており、国道17号新大宮バイパスに沿っては流通業務施設や工場が立地しているほか、区役所北側には多くの製造業が集積し、工業団地を形成しています。また、区の中央部に位置する埼玉大学は文理5学部を有し、約1万人の教職員・学生が様々な活動を行っています。</p> <p>(都市基盤・環境)</p> <p>区内の幹線道路としては、東西方向に埼大通り(国道463号)があり、南北方向には国道17号新大宮バイパスが走っています。また、鉄道駅としては区の南端部にはJR武蔵野線の西浦和駅があるほか、区境に近接してJR埼京線の南与野駅、中浦和駅があります。</p> <p>しかし、道路交通には、広域幹線道路*である国道17号新大宮バイパスとの交差点における渋滞の発生などの問題が見られ、高齢社会の進展や環境問題などにも対応しながら、安全で利便性の高い交通環境の向上に取り組む必要があります。その他にも、災害対策や商業の活性化など、日常生活面での安全性・利便性の向上が求められます。</p> <p>また、道場地区には記念総合体育館に隣接して区役所、図書館、ホール等を有するプラザウエストが整備され、生涯学習をはじめとする様々な市民活動や行政サービスの拠点となっています。</p> <p>西浦和駅周辺地区については、暫定的に駅前広場や駅へのアクセス道路が整備されましたが、今後も都市基盤*や産業基盤の整備、生活に密着した商業その他のサービス機能の集積など、利便性・機能性の向上が求められます。</p> <p>(地域資源)</p> <p>荒川河川敷には、国指定特別天然記念物の田島ヶ原サクラソウ自生地、ハンノキ林等の樹林地など良好な自然環境があり、さらに水田や畑などの豊かな田園環境も残されています。また、大久保古墳群や神社仏閣、田島の獅子舞や宿・神田の祭りばやしなどの歴史的・文化的な資源も豊富です。今後、ゆとりや潤いある生活を送るためには、このような地域の資源を積極的に活用していくことが必要です。</p> <p>この他、埼玉大学の英知や学生の若い力も地域の資源として、連携しながら特徴あるまちづくりに取り組んでいくことも大切です。</p>	<p><特 性></p> <p>桜区は西側を荒川が流れ、桜草公園や秋ヶ瀬公園、荒川総合運動公園などが自然豊かなグリーンベルトを形成するなど、都市化の進んだ本市の中では田園的な面影を残した地域です。東部や南部には住宅を中心とする市街地が形成されており、国道17号新大宮バイパスに沿っては流通業務施設や工場が立地しているほか、区役所北側には多くの製造業が集積し、工業団地を形成しています。また、区の中央部に位置する埼玉大学<u>では</u>、約1万人の学生・教職員が<u>教育、研究、社会貢献など様々な取組</u>を行っています。</p> <p>(都市基盤・環境)</p> <p><u>主要な道路</u>としては、東西方向に埼大通り(国道463号)や<u>町谷本太線</u>、南北方向に国道17号新大宮バイパスが走っている<u>ほか、道場三室線などの整備が進められています</u>。また、鉄道駅として、区の南端部にはJR武蔵野線の西浦和駅があるほか、区境に近接してJR埼京線の南与野駅、中浦和駅があります。</p> <p>しかし、道路交通には、国道17号新大宮バイパスとの交差点における渋滞発生<u>のほか、歩行者等と車のすれ違いが困難な道路が多いことや駅へのアクセスが不便であること</u>などの問題が見られる<u>ことから、超高齢化社会の到来</u>や環境問題などにも対応しながら、<u>地域に密着した道路整備や公共交通の充実など</u>、安全で利便性の高い交通環境の向上に取り組む必要があります。</p> <p>その他にも、<u>地震対策・風水害対策の強化</u>や<u>防犯活動・交通安全運動の推進</u>、商業の活性化など、日常生活面での安全性・利便性の向上が求められて<u>います</u>。</p> <p>西浦和駅周辺については、暫定的に駅前広場や駅へのアクセス道路が整備されましたが、今後も都市基盤*や産業基盤の整備、生活に密着した商業機能の<u>充実を図る</u>など、利便性の向上が求められて<u>います</u>。</p> <p>(地域資源)</p> <p>荒川河川敷には、国指定特別天然記念物の田島ヶ原サクラソウ自生地、ハンノキ林等の樹林地など良好な自然環境があり、豊かな田園環境も残されています。また、大久保古墳群や神社仏閣、田島の獅子舞や宿・神田の祭りばやしなどの歴史的・文化的な<u>財産</u>も豊富です。</p> <p><u>道場地区には記念総合体育館に隣接して区役所、図書館、ホール等を有するプラザウエストが整備され、生涯学習をはじめとする様々な市民活動や行政サービスの拠点となっています。また、新開地区にあるさいたま市桜環境センターには余熱体験施設が整備され、健康維持・増進にもつながる区民の憩いの場となっています。</u></p> <p>このような地域の資源を積極的に活用し、<u>ふれあいやにぎわいの機会を創出することが重要です</u>。</p> <p>この他、埼玉大学の英知や学生の若い力も地域の資源として、連携しながら特徴あるまちづくりに取り組んでいくことが大切です。</p>

後期基本計画	次期総合振興計画（現行計画からの変更箇所は赤字／審議会意見反映箇所は緑字）
<p>（コミュニティ）</p> <p>区内には、長く住み続けている住民が多くいる一方で、近年、宅地開発などに伴って新たに転入してきた住民も増え、住民同士の連携もやや希薄になっています。</p> <p>このため、コミュニティ活動の機会や環境の充実を図りながら、従来のコミュニティ活動の活性化や多くの住民の社会参加を促し、コミュニケーションの輪を広げ、人と人のつながりを大切にしたいコミュニティづくりを進めていくことが必要です。</p> <p>そして、住民や地域団体、大学、事業者、行政などが連携を図りつつ、子どもから高齢者まで、すべての人々が安全で安心して元気に暮らせる環境づくりに取り組んでいくことが求められます。</p>	<p>（コミュニティ）</p> <p><u>区内では、自治会やボランティア団体による地域コミュニティ活動が活発に進められている一方、それらの活動への若い世代の参加、後継者の育成などが課題となっています。</u></p> <p>このため、従来のコミュニティ活動の<u>更なる活性化を図りつつ</u>、多くの住民の参加を促し、コミュニケーションの輪を広げ<u>ていくこと</u>が必要です。</p> <p>そして、住民や地域団体、事業者、大学、行政などが連携を図りつつ、子ども、高齢者、<u>障害者など</u>、すべての人々が安心して元気に暮らせる環境づくりに取り組み、<u>住みやすい、住み続けたいと思えるまちづくりを進めていくことが大切です。</u></p>

「浦和区の特性」（素案）（第3部会（第1回）の意見反映）

後期基本計画	次期総合振興計画（現行計画からの変更箇所は赤字／審議会意見反映箇所は緑字）
<p><特 性></p> <p>浦和区は、中山道浦和宿が置かれたことを契機に急速な発展をはじめ、明治初期には県庁が設置され、埼玉県の行政の中心地としての役割を担うようになりました。市役所をはじめ県などの官公庁や文化・教育施設が数多いことから、歴史のある文教地区としてのイメージが定着しています。</p> <p>（都市基盤・環境）</p> <p>区内には、南北方向に国道17号や旧中山道、産業道路が、東西方向には国道463号や田島大牧線が伸びて、道路体系の骨格を形成しています。また、JR線の3駅（浦和駅、北浦和駅、与野駅）があり、なかでも浦和駅周辺は商業・業務機能や行政機能が集積する本市の都心として、市の発展の一翼を担っています。大きく見ると、JR線沿線を境に西側にはオフィス街が、東側は緑の多い住宅街が広がり、にぎわいと潤いが共存するという特性を有しています。</p> <p>長い歴史の中で発展してきたことから、道路などの都市基盤*や公共交通機関、身近な公共施設の整備は比較的進んでおり、生活利便性の高い地区となっています。一方で、都市化による交通混雑の解消や歩行者の安全確保など道路交通環境の向上、増加する中高層住宅と近隣の生活環境との調和といった課題も生じており、その対応が必要となっています。また、市内では極めて人口密度の高い区の一つであることから、身近な緑や都市空間のゆとりの創出など、生活環境の質的な向上にも取り組む必要があります。</p> <p>（産業）</p> <p>浦和駅周辺地区には大型商業施設や金融機関などが多く集まり、大宮駅周辺地区とともに本市における商業・サービス業の中心となっています。近年、駅周辺のさらなる機能の向上に向けた浦和駅東口駅前地区市街地再開発事業*、鉄道高架化事業が進展し、東西市街地の一体化と新たなにぎわいの創出が期待されています。また、北浦和駅や与野駅周辺にも、商業や各種のサービス業が集積したにぎわいのある地区が形成されています。</p> <p>しかし、従来からの商店街の一部では時代の変革に伴い活気が失われているところも見られ、その活性化が望まれています。</p> <p>（地域資源）</p> <p>浦和区は古くから発展したまちで、その歴史は旧中山道周辺の街並みや神社仏閣、史跡や天然記念物等の文化財、古くから伝わる祭りなどから読み取ることができます。また、美術館や図書館、科学館、スポーツ施設、高等学校なども多く、教育・文化に関わる資源に恵まれていることが特徴です。</p> <p>浦和区は埼玉サッカー発祥の地でもあり、浦和駒場スタジアム（駒場運動公園競技場）が整備されており、街はサッカーを愛するファンでにぎわいを見せています。また、国際交流基金「日本語国際センター」が設置されていることを活用するなど、国際交流の機会を創出していくことが期待されています。交流基金「日本語国際センター」が設置されていることを活用するなど、国際交流の機会を創出していくことが期待されています。</p>	<p><特 性></p> <p>浦和区は、中山道浦和宿が置かれたことを契機に急速な発展をはじめ、明治初期には県庁が設置され、埼玉県の行政の中心地としての役割を担うようになりました。市役所をはじめ県などの官公庁や文化・教育施設が数多いことから、歴史のある文教地区としてのイメージが定着しています。</p> <p>（都市基盤・環境）</p> <p>区内には、南北方向に国道17号や旧中山道、産業道路が、東西方向には国道463号や田島大牧線が伸びて、道路体系の骨格を形成しています。また、JR線の3駅（浦和駅、北浦和駅、与野駅）があり、なかでも浦和駅周辺は<u>商業・業務機能、行政機能、文化、街なか居住機能などが</u>集積する本市の都心として、市の発展の一翼を担っています。大きく<u>み</u>ると、JR線沿線を境に西側にはオフィス街が、東側は緑の多い住宅街が広がり、にぎわいと潤いが共存するという特性を有しています。</p> <p>長い歴史の中で発展してきたことから、道路などの都市基盤*や公共交通機関、身近な公共施設の整備は比較的進んでおり、生活利便性の高い地区となっています。一方で、都市化による交通混雑の解消や歩行者の安全確保など道路交通環境の向上、増加する中高層住宅と近隣の生活環境との調和といった課題も生じており、その対応が必要となっています。また、市内では極めて人口密度の高い区の一つであることから、身近な緑や都市空間のゆとりの創出など、生活環境の質的な向上が<u>求められています。</u></p> <p>（産業）</p> <p>浦和駅周辺地区には大型商業施設や金融機関などが多く集まり、大宮駅周辺地区とともに本市における商業・サービス業の中心となっています。<u>近年では、鉄道高架化事業の完成により東西市街地一体化が図られたことに加え、中ノ島地下通路の開通により、まちの回遊性やにぎわいが高まり、日常生活の利便性向上や経済活動の活性化が図られました。また、今後の再開発事業等の進展により、更なる回遊性の向上やにぎわいの創出が期待されています。一方で、北浦和駅や与野駅周辺にも、商業や各種のサービス業が集積していますが、商店街のいっそうの活性化が望まれています。</u></p> <p>（地域資源）</p> <p>浦和区は古くから発展したまちで、その歴史は旧中山道周辺の街並みや神社仏閣、史跡や天然記念物等の文化財、古くから伝わる祭りなどから読み取ることができます。また、美術館や図書館、スポーツ施設、高等学校なども多く、教育・文化に関わる資源に恵まれていることが特徴です。</p> <p>浦和区は埼玉サッカー発祥の地でもあり、浦和駒場スタジアム（駒場運動公園競技場）<u>や大原サッカー場</u>が整備されており、街はサッカーを愛するファンでにぎわいを見せています。<u>そのほか、区内にある12の公民館や浦和コミュニティセンターなどは区民の様々なコミュニティ活動の拠点となっています。また、子ども家庭総合センター（愛称：あいばれっ）も整備され子育て支援や地域交流の場ともなっています。加えて、国際交流基金「日本語国際センター」が設置されていることから、このセンターを活用した国際交流が創出されています。</u></p>

後期基本計画	次期総合振興計画（現行計画からの変更箇所は赤字／審議会意見反映箇所は緑字）
<p>（コミュニティ）</p> <p>浦和区では、自治会が中心となって地域コミュニティ*活動や行事などを活発に行っており、ボランティア団体やNPO*、市民活動ネットワークなどによる自発的な活動も盛んです。住民の流出入が多いため、新たな住民が地域に溶け込み、共に参加できるよう、区内12の公民館や浦和コミュニティセンターなどの恵まれたコミュニティ関連施設を活用しながら多彩なコミュニティ活動の振興を図り、区民間の交流を深めていくことが必要です。</p> <p>また、市内では単身高齢者世帯の割合が高い区の一つとなっており、地域の見守りを強化し、支え合いのネットワークづくりに取り組む必要があります。</p>	<p>（コミュニティ）</p> <p>浦和区では、自治会が中心となって地域コミュニティ*活動や行事などを活発に行っており、ボランティア団体やNPO*、市民活動ネットワーク*などによる自発的な活動も盛んです。住民が<u>共に参画し、多彩なコミュニティ活動を通じて</u>交流を深め<u>協働によるまちづくりを進めていくことが大切</u>です。</p> <p>また、市内では単身高齢者世帯が<u>多い区の一つとなっていることから</u>、地域の見守りを<u>更に</u>強化し、支え合いのネットワークづくりに<u>いっそう</u>取り組む必要があります。</p>

「南区の特性」（素案）（第3部会（第1回）の意見反映）

後期基本計画	次期総合振興計画（現行計画からの変更箇所は赤字／審議会意見反映箇所は緑字）
<p><特 性></p> <p>市の南端に位置する南区は東京に最も近く、都内への鉄道利便性も高いため人口増加率が高く、現在、市内10区で最大の人口を有しており、若い世代の割合が多いという特徴もあります。この中で、交通利便性に優れ、本市の副都心と位置付けられている武蔵浦和駅周辺では、都市型住宅*の供給とともに商業・業務機能の集積を目指して大規模な市街地再開発事業*が進められており、本市の南の玄関口として拠点性が高まっています。</p> <p>（都市基盤・環境）</p> <p>鉄道網としては、南北方向にJR京浜東北線、JR埼京線が、東西方向にはJR武蔵野線が走り、これらが交差する2駅（武蔵浦和駅、南浦和駅）に加え、中浦和駅があります。また、幹線道路としては、国道17号新大宮バイパス、国道17号、産業道路などがあります。全体として見ると、鉄道網による都内への利便性は高い状況にありますが、道路については東西方向の幹線道路などに未整備区間が残されているため、駅周辺をはじめ交通渋滞が目立っており、機能的な幹線道路網の確立が必要です。また、子どもや高齢者が安心して歩行できる道路環境の整備も求められています。</p> <p>南区は、東京への近接性に優れていることもあって都市化が進み、それに伴って雑木林などが減少してきました。今後も引き続き、マンション建設などによる宅地化の進行が見込まれるため、公園の整備や道路の緑化などに加え、民有地の緑化にも積極的に取り組み、緑を増やしていくことが必要です。同時に、生活道路*や下水道をはじめとする身近な生活基盤の充実を図り、環境に配慮した誰もが快適に暮らせる居住空間を築いていくことが求められます。</p> <p>（地域資源）</p> <p>緑の空間は減少が続いていますが、東部を中心に屋敷林*、社寺林や斜面林が残されており、今後、保全すべき箇所を明確にしながら、潤いある空間として大切にしていく必要があります。また、別所沼や白幡沼、彩湖の水辺空間、鴻沼川や笹目川、藤右衛門川、見沼代用水西縁などの河川・水路があり、水質の維持・向上とともに地域資源として有効活用していくことが求められます。</p> <p>この他、武蔵浦和駅・南浦和駅周辺などに集積が進みつつある商業・業務機能を新しい地域資源として活用することが課題です。</p> <p>（コミュニティ）</p> <p>東京への通勤者が多い南区は、若い世代を中心に人口流入が続く一方、古くから続く祭りや伝統行事が少なくなっているのが現況です。しかし、長く住み続けられるまちづくりのためには、良好なコミュニティが必要不可欠であり、新しいイベントづくりなどを通して住民相互の交流を深めるとともに、地域資源の発掘なども進め、区民が地域に愛着を感じられるまちづくりが求められます。また、このようなまちづくりには市民と行政の協働が重要であり、情報提供を推進し、市民のネットワークづくりや市民活動を活発化していくことが課題です。</p>	<p><特 性></p> <p>市の南端に位置する南区は東京に最も近く、鉄道<u>の利便性が高い</u>ため人口<u>の増加が続き</u>、市内10区で最大の人口を有して<u>います</u>。若い世代の割合が多い<u>一方で高齢者が増加している</u>という特徴もあります。この中で、交通利便性に優れ、本市の副都心と位置付けられている<u>武蔵浦和地区</u>では、<u>多様な機能の集積を目指して市街地再開発事業等*によるまちづくりが進んでおり</u>、<u>地域生活拠点である南浦和駅周辺とともに、交通結節点</u>として拠点性が高まっています。</p> <p>（都市基盤・環境）</p> <p>鉄道網としては、南北方向にJR京浜東北線、JR埼京線が、東西方向にはJR武蔵野線が走り、これらが交差する2駅（武蔵浦和駅、南浦和駅）に加え、中浦和駅があります。また、幹線道路としては、国道17号新大宮バイパス、国道17号、産業道路、<u>東京外かく環状道路、首都高速埼玉大宮線</u>などがあります。全体として見ると、鉄道網、<u>道路網</u>による利便性は高い状況にあります。<u>一方、区内の道路</u>については東西方向の幹線道路などに未整備区間が残されているため、機能的な幹線道路網の確立が必要です。また、子どもや高齢者が安心して<u>利用</u>できる道路環境の整備も求められています。</p> <p>南区は、東京への近接性に優れていることもあって都市化が進み、それに伴って雑木林などが減少してきました。今後も引き続き、マンション建設などによる宅地化の進行が見込まれるため、公園の整備や道路の緑化などに加え、民有地の緑化にも積極的に取り組み、緑を増やしていくことが必要です。同時に、利便性の高い安全な道路等の身近な生活基盤の充実を図るとともに、環境に配慮した誰もが快適に暮らせる居住空間を<u>築き、子どもから高齢者まで健幸*で元気に暮らせるまちづくり</u>が求められます。</p> <p>（地域資源）</p> <p>緑の空間は減少が続いていますが、東部を中心に屋敷林*<u>や</u>社寺林が残されており、今後、保全すべき箇所を明確にしながら、潤いある空間として大切にしていく必要があります。また、別所沼や白幡沼、彩湖の水辺空間、鴻沼川や笹目川、藤右衛門川、見沼代用水西縁などの河川・水路があり、水質の維持・向上とともに地域資源として有効活用していくことが求められます。</p> <p>この他、武蔵浦和駅・南浦和駅周辺などに集積が進みつつある商業・業務機能<u>を</u>新しい地域資源として活用することが課題です。</p> <p>（コミュニティ）</p> <p>人口流入が続く<u>中、多世代が長く住み続けられるまちをつくる</u>ためには、<u>新旧住民の交流を進め、良好なコミュニティを構築することが不可欠です。そのためには、うなぎやサッカーなどの伝統文化に加え、新たな地域資源の発掘を進めるとともに、スポーツや新しいイベントづくりを通して住民相互の絆を深めながら、区民が地域に愛着を感じられるまちをつくる</u>ことが必要です。</p> <p>また、このようなまちづくりには市民と行政が<u>協働することにより</u>、市民のネットワークづくりや市民活動を活発化していくことが<u>求められます</u>。</p>

「緑区の特性」 (素案) (第3部会 (第1回) の意見反映)

後期基本計画	次期総合振興計画 (現行計画からの変更箇所は赤字/審議会意見反映箇所は緑字)
<p><特 性></p> <p>緑区は市の東南部に位置し、見沼田圃に代表される自然環境に恵まれ、地域の歴史を伝える多くの文化財が示すように古くから人の暮らしが営まれた地域です。現在も、緑豊かな住宅地として多くの市民が暮らしていますが、浦和美園駅周辺地区では「スポーツ、健康、環境・エネルギー」のブランド化を図るまちづくりを促進するなど、新しいまちづくりの戦略的展開も期待されています。</p> <p>(都市基盤・環境)</p> <p>緑区は武蔵野特有の雑木林が多い農村地帯でしたが、首都圏の拡大に伴って区の西部や東浦和駅、東川口駅周辺で宅地化が進んできました。さらに、市街地においても緑の多いゆとりある住宅地が形成され、生活基盤の整備が進められています。また、中央部を南北に広がる見沼田圃は地域の貴重な環境資源であり、農地や自然環境の保全とともに、市民に親しまれる場として期待されています。</p> <p>区内の幹線道路網は、南北方向に走る東部の国道 122 号や西部の第二産業道路、中央部を東西方向に走る国道 463 号により構成されています。鉄道駅は、東浦和駅、浦和美園駅がありますが、区境近くに位置しているため、バスなどが果たす役割が大きく、公共交通の利便性の増大が求められています。</p> <p>また、浦和美園駅周辺地区では、土地の活用促進や地区の魅力増強に向けた様々な施策を推進し、定住人口・交流人口を増やすことが期待されています。</p> <p>(地域資源)</p> <p>緑区は、さいたま緑のトラスト保全*第1号地の南部領辻地内にある見沼代用水東縁に面する斜面林に代表される見沼田圃の豊かな自然環境、さぎ山記念公園や大崎公園をはじめ、緑の豊かな公園などの環境資源に恵まれています。</p> <p>また、見沼通船堀 (国指定文化財)、大門宿本陣表門及び氷川女體神社社殿 (県指定文化財) や南部領辻の獅子舞 (市指定無形民俗文化財*) など、地域の歴史を伝える文化財、神社仏閣や伝統ある祭りや催しものが多く残されています。この他、埼玉スタジアム 2002 は、まちづくりに新しい展開をもたらす地域の核として期待されています。</p>	<p><特 性></p> <p>緑区は、市の東南部に位置し、<u>首都圏有数の緑地空間である</u>見沼田圃に代表される自然環境に恵まれ、地域の歴史を伝える多くの文化財が示すように古くから人の暮らしが営まれた地域です。現在も、緑豊かな住宅地として多くの市民が暮らして<u>おり</u>、浦和美園駅周辺地区では「スポーツ、健康、環境・エネルギー」のブランド化を図るまちづくりを<u>推進</u>するなど、新しいまちづくりの戦略的展開も期待されています。</p> <p>(都市基盤・環境)</p> <p>緑区は武蔵野特有の雑木林が多い農村地帯でしたが、首都圏の拡大に伴って区の西部や東浦和駅、東川口駅周辺で宅地化が進んできました。さらに、市街地においても緑の多いゆとりある住宅地が形成され、<u>尾間木地区では、消防署、児童センター、公民館による複合施設、浦和美園駅東口駅前には、コミュニティセンター、支所、図書館、教育相談室などによる複合施設も開設し、地域交流の拠点を含めた</u>生活基盤の整備が進められています。</p> <p>また、中央部を南北に広がる見沼田圃は地域の貴重な環境資源であり、農地や自然環境の保全とともに、市民に親しまれる場として期待されています。</p> <p>区内の幹線道路網は、南北方向に走る東部の国道 122 号や西部の第二産業道路、中央部を東西方向に走る国道 463 号により構成されています。鉄道駅は、東浦和駅、浦和美園駅がありますが、区境近くに位置しているため、バスなどが果たす役割が大きく、公共交通の利便性の増大が求められています。</p> <p>また、浦和美園駅周辺地区では、<u>公 (自治体)・民 (地域団体・企業等) + 学 (大学等研究機関) の連携・協働により、良好な住環境の維持・向上や駅周辺等の賑わい創出など、副都心にふさわしい都市環境形成を図り、定住人口・交流人口を増やすことが期待されています。</u></p> <p>(地域資源)</p> <p>緑区は、さいたま緑のトラスト保全*第1号地の南部領辻地内にある見沼代用水東縁に面する斜面林に代表される見沼田圃の豊かな自然環境、さぎ山記念公園や大崎公園をはじめ、緑の豊かな公園などの環境資源に恵まれています。</p> <p>また、見沼通船堀 (国指定文化財)、大門宿本陣表門及び氷川女體神社社殿 (県指定文化財) や南部領辻の獅子舞 (市指定無形民俗文化財*) など、地域の歴史を伝える文化財、神社仏閣や伝統ある祭りや催しものが多く残されています。この他、埼玉スタジアム 2002 は、<u>東京 2020 オリンピック競技大会のサッカー会場になるなど</u>、まちづくりに新しい展開をもたらす地域の核として期待されています。</p>

後期基本計画	次期総合振興計画（現行計画からの変更箇所は赤字／審議会意見反映箇所は緑字）
<p>（産業）</p> <p>区内には、従来の商店街に加え、大型商業店舗などが増加しています。また、浦和美園駅周辺地区では地区の魅力を創出する施設の誘致が検討されています。</p> <p>農地では水稲や畑作、植木・花き栽培などが広く行われています。また、近年では観光農園など都市近郊の立地条件を生かした新たな経営形態への取組が図られています。</p> <p>（コミュニティ）</p> <p>区内では、勤労者を中心とする子育て世帯など、比較的若い年代の転入者によって人口が増加していますが、旧・新住民の間には、生活上の関心事やまちづくりに対する思いなど意識に差異が見られます。</p> <p>住みよいコミュニティづくりには、自治会活動やコミュニティ活動を通じて、多様な交流により相互理解を進め、住民活動の活性化を図ることが求められます。</p>	<p>（産業）</p> <p>区内には、従来の商店街に加え、大型商業店舗などが増加しています。また、浦和美園駅周辺地区では地区の魅力を創出する施設の誘致が検討されています。</p> <p>農地では水稲や畑作、植木・花産栽培などが広く行われています。また、近年では観光農園など都市近郊の立地条件を生かした新たな経営形態への取組が図られています。</p> <p>（コミュニティ）</p> <p>区内では、勤労者を中心とする子育て世帯など、比較的若い年代の転入者によって人口が増加していることから、旧・新住民が自治会活動やコミュニティ活動を通じて、多様な交流により相互理解を進め、区民の誰もがいつまでも住み慣れた街で健幸*に暮らせるよう、住民活動の活性化を図り、住みよいコミュニティづくりが求められます。</p>

「岩槻区の特性」(素案)(第3部会(第1回)の意見反映)

後期基本計画	次期総合振興計画(現行計画からの変更箇所は赤字/審議会意見反映箇所は緑字)
<p><特 性></p> <p>岩槻区は、中世から鎌倉街道など主要道路と荒川(現在の元荒川)が交差する交通の要衝として重視され、室町時代以降、城下町として発展し、江戸時代には日光御成道の宿場町としても栄えた歴史のまちです。また、人形のまちとして全国的にも有名であり、岩槻城址をはじめ様々な歴史的資源と、人形店の並ぶ街並みや人形にちなんだ祭り、イベントなどがあいまって、区内外の人々の交流が生み出されています。台地上には屋敷林*や社寺林が残され、これを取り囲むように連なる斜面林、そして、綾瀬川や元荒川をはじめとする水辺がともに緑のネットワークを形成しており、水と緑に恵まれた居住空間を提供しています。</p> <p>(都市基盤・環境)</p> <p>区の中央を東武野田線が東西に延び、岩槻駅、東岩槻駅の2駅と大宮駅とを結ぶ、区民の重要な足となっています。現在、地下鉄7号線*の延伸促進への取組が行われており、南北方向の新しい軸の形成が期待されています。主要な道路としては、国道122号、国道16号及び国道463号、さいたま幸手線(日光御成道)、越谷岩槻線などがあり、道路体系の骨格を形成しているほか、東北自動車道岩槻インターチェンジがあつて、産業の大動脈となっています。</p> <p>市街地は鉄道沿線にまともっており、全体的には住宅地を中心としていますが、人形店の並ぶ商店街、伝統ある寺社や岩槻城址等の歴史文化的資源、各種公共施設など、様々な魅力と機能が集まっており、個性ある拠点となっています。また、市街地の周囲には緑地や農地が広がり、特に、台地上の屋敷林や雑木林とこれらを取り囲む斜面林が、綾瀬川、元荒川と一体となって織りなす風景は、水辺と緑に恵まれた岩槻区を象徴するものとして区民に親しまれています。</p> <p>コミュニティ施設、文化、スポーツ施設など、身近な公共施設もおおむね整備されていますが、一方で、急激な都市化に都市基盤*の整備が追い付かなかつた面があり、公共下水道の整備、子どもや高齢者、障害者でも安心して歩ける生活道路*や、自転車利用にも配慮した道路の整備、市街地におけるオープンスペース*の確保などを進め、潤いのある安全な生活環境の確立に取り組む必要があります。</p> <p>(産業)</p> <p>全国的にも知名度の高い人形づくりは200年近い歴史があり、伝統的工芸品にも指定されていますが、年々事業所が減少する傾向にあり、観光などと連携した活性化が模索されています。また、北部の岩槻工業団地を中心に、機械、金属などの製造業も集積し、市内の製造業の拠点として重要な役割を担っています。農業も10区の中で最も活発であり、米のほかクワイ、コマツナ、ネギなどの野菜、アサガオ、シクラメンなどの花や苗木の生産に特色があります。</p>	<p><特 性></p> <p>岩槻区は、中世から鎌倉街道など主要道路と荒川(現在の元荒川)が交差する交通の要衝として重視され、室町時代以降、城下町として発展し、江戸時代には日光御成道の宿場町としても栄えた歴史のまちです。また、全国的にも有名<u>な人形のまち</u>であり、岩槻城址をはじめ様々な歴史的資源と、人形店の並ぶ街並みや人形にちなんだ祭り、イベントなどがあいまって、区内外の人々の交流が生み出されています。台地上には屋敷林*や社寺林が残され、これを取り囲むように連なる斜面林、そして、綾瀬川や元荒川をはじめとする水辺がともに緑のネットワークを形成しており、水と緑に恵まれた<u>自然環境は、区の大きな資源となっています。</u></p> <p>(都市基盤・環境)</p> <p>区の中央を東武野田線(<u>東武アーバンパークライン</u>)が東西に延び、岩槻駅、東岩槻駅の2駅と<u>ターミナル駅である</u>大宮駅とを結ぶ、区民の重要な足となっています。<u>区の南北方向には</u>、地下鉄7号線*の延伸促進への取組が行われており、<u>さいたま市東部地域の発展と市の副都心としての役割を果たすための</u>新しい軸の形成と<u>交流人口・定住人口の増加</u>が期待されています。主要な道路としては、国道122号、国道16号及び国道463号、さいたま幸手線(日光御成道)、越谷岩槻線などがあり、道路体系の骨格を形成しているほか、東北自動車道岩槻インターチェンジがあり、産業の大動脈となっています。</p> <p><u>岩槻駅の橋上化による東西自由通路と駅前広場が整備され、商業の活性化と潤いのある地域の形成が期待されています。</u>市街地は鉄道沿線にまともっており、<u>主に住宅地となりますが、駅周辺を中心市街地は</u>、人形店の並ぶ商店街、伝統ある寺社や岩槻城址等の歴史文化的資源、各種公共施設など、様々な魅力と機能が集まっています。<u>旧岩槻区役所敷地には、「岩槻人形博物館」と「にぎわい交流館いわつき」が整備され、まちなかに賑わいを生み出し、人々が交流を促進する拠点となっています。</u>また、市街地の周囲には緑地や農地が広がり、特に、台地上の屋敷林や雑木林とこれらを取り囲む斜面林が、綾瀬川、元荒川と一体となって織りなす風景は、水辺と緑に恵まれた岩槻区を象徴するものとして区民に親しまれています。</p> <p>コミュニティ施設、文化・スポーツ施設など、身近な公共施設もおおむね整備されていますが、一方で、都市基盤*の整備が追いついていない面があり、<u>さらに</u>公共下水道の整備、子どもや高齢者、障害者も安心して歩ける生活道路*や、自転車利用にも配慮した道路の整備などを進め、潤いのある安全な生活環境の確立に取り組む必要があります。</p> <p>(産業)</p> <p>全国的にも知名度の高い人形づくりは200年近い歴史があり、伝統的工芸品にも指定されていますが、年々事業所が減少する傾向にあり、観光などと連携した活性化<u>に取り組んでいます</u>。また、北部の岩槻工業団地を中心に、機械、金属などの製造業も集積し、市内の製造業の拠点として重要な役割を担っています。農業も活発であり、米のほかクワイ、コマツナ、ネギ<u>や</u>、アサガオ、シクラメンなどの花や苗木の<u>生産に特色があります。さらに、スティッキオ、ゴルゴなどのヨーロッパ原産の野菜を数多く栽培し、注目されています。</u></p>

後期基本計画	次期総合振興計画（現行計画からの変更箇所は赤字／審議会意見反映箇所は緑字）
<p>（地域資源）</p> <p>国指定史跡の真福寺貝塚、三蔵法師とのゆかりが伝えられる名刹慈恩寺、桜の名所としても知られる岩槻城址公園、時の鐘、岩槻藩遷喬館、さらに日光御成道の杉並木や街並みなど、古くからの歴史を伝える資源が岩槻区には多く残されています。歴史・文化にちなんだ祭りや行事も多く、まちかど雛めぐり、流しびな、岩槻まつり（ジャンボ雛段）、人形供養祭、古式土俵入りなどが、区内外の人々に親しまれています。</p> <p>水辺と緑も岩槻区を象徴する資源であり、なかでも、キタミソウやチョウジソウの自生地のある元荒川緑地や赤坂沼には希少な動植物が生息しており、将来世代に継ぐべき貴重な自然空間となっています。</p> <p>（コミュニティ）</p> <p>長い歴史のある地域コミュニティ*活動や、ボランティア活動が活発な区ですが、新しく転入してきた住民や若い世代の参加をより進めるため、地域での交流を深める必要があります。</p>	<p>（地域資源）</p> <p>岩槻区には、国指定史跡の真福寺貝塚、玄奘三蔵法師とのゆかりが伝えられる名刹慈恩寺、桜の名所としても知られる岩槻城址公園、時の鐘、岩槻藩遷喬館、さらに日光御成道の杉並木や街並みなど、古くからの歴史を伝える資源が多く残されています。歴史・文化にちなんだ祭りや行事も多く、まちかど雛めぐり、流しびな、人形のまち岩槻まつり、人形供養祭、古式土俵入りなどが、区内外の人々に親しまれています。</p> <p>水辺と緑も岩槻区を象徴する資源であり、なかでも、キタミソウやチョウジソウの自生地のある元荒川緑地や赤坂沼には希少な動植物が生息しており、将来世代に継ぐべき貴重な自然空間となっています。</p> <p>（コミュニティ）</p> <p>長い歴史のある地域コミュニティ*活動や、ボランティア活動が活発な区ですが、新しく転入してきた住民や若い世代の参加をより進めるため、地域住民同士の交流を深める必要があります。</p>